

## 平成10年度小児慢性特定疾患治療研究事業の全国的登録状況

分担研究者：加藤 忠明、日本子ども家庭総合研究所小児保健担当部長  
主任研究者：柳澤 正義、東京大学医学部小児科教授  
分担研究者：青木 菊麿、女子栄養大学小児保健学教授  
分担研究者：中村 敬、日本子ども家庭総合研究所情報担当部長  
分担研究者：田中 敏章、国立小児病院小児医療研究センター内分泌代謝研究部長  
分担研究者：山縣然太郎、山梨医科大学保健学 教授  
研究協力者：斉藤 進、日本子ども家庭総合研究所システム管理室長代理  
中澤 眞平、山梨医科大学小児科教授  
澤田 淳、京都府立医科大学小児科教授  
内山 聖、新潟大学医学部小児科教授  
森川 昭廣、群馬大学医学部小児科教授  
石澤 瞭、国立小児病院循環器科医長  
奥野 晃正、伊藤 善也、旭川医科大学小児科教授、助手  
宮田晃一郎、鹿児島大学医学部小児科教授  
松浦 信夫、北里大学医学部小児科教授  
黒田 泰弘、徳島大学医学部小児科教授  
小宮山 淳、信州大学医学部附属病院長  
飯沼 一字、東北大学医学部小児科教授  
住友眞佐美、東京都衛生局母子保健課長  
竹内 義廣、三重県健康福祉部児童家庭課母子医療対策監

見出し語：小児慢性特定疾患、医療意見書、全国的登録管理、コンピュータ集計解析

**A．研究目的：**平成10年度小児慢性特定疾患治療研究事業(以下、小慢事業)の全国的な登録状況に関して、全般的な集計・解析を実施した。各疾患群ごと、及び各疾患の頻度を明らかにし、また主な小児慢性特定疾患(以下、小慢疾患)に関しては、その分類別の頻度や経過、診断時や発病時の年齢、主な症状や検査所見、合併症の有無、経過等を解析した。

小慢疾患の全国レベルでの登録状況を把握し、国や地方自治体、そして小慢疾患を診療、また研究する多くの医療関係者に、その情報を提供することを目的とした。

**B．研究方法：**平成10年度、全国80カ所の都道府県・指定都市・中核市のうち、小慢事業に関して、平成11年12月までにコンピュ

ータソフトによる事業報告があった56カ所からの医療意見書69,588人の内容を解析した。この内容には、自動計算された患児の発病年月齢や診断時(意見書記載時)の年月齢は含まれているが、プライバシー保護に十分配慮するため、患児の氏名や生年月日、また医療機関名や意見書記載年月日等が自動的に削除されている。

**C．結果と考察：**10疾患群ごとの医療意見書と成長ホルモン治療用意見書の主な集計解析結果を、表1～表12に示す。これらの結果の主要な部分は、情報公開の原則に基づき、インターネット等での公開が望まれる。

近年の医療の進歩に伴い、適切な医療を受けている場合(医療意見書が提出されている場合など)、各小慢疾患の症状や検査所見がかなり

コントロールされていることがわかった。

平成10年度より、医療意見書を申請書に添付させ、診断基準を明確にして小慢疾患対象者を選定する方式に全国的に統一されている。そのため、平成9年度給付実績（厚生省母子保健課：小児慢性特定疾患治療研究事業の実施状況。全国母子保健主管課長会議資料、1999年1月）の登録者数に比較して、多くの都道府県等で、登録者数はやや減少傾向が見られた。ただし、極端に減少した地域に関しては、コンピュータ入出力上に何らかの不手際があったものと推測される。今後、都道府県等で使用しているコンピュータソフトを編集可能な内容に改良するなど、ソフトを使用しやすい内容に改善していかねばならない。

「慢性腎疾患」、「慢性心疾患」等、1カ月以上の入院を必要とするもののみ国が小慢事業対象としている疾患群は、都道府県等が通院も含めて単独事業として小慢事業対象にしている地域が比較的多い。そのため、都道府県単独事業（以下、県単と略す）での登録者数の割合が多かった。

対象年齢は、原則としては18歳未満であるが、20歳未満まで延長可能な急性リンパ性白血病、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、気管支喘息なども18～19歳の登録者数は、18歳未満に比べて少なかった。

以下、「無記入」とは、医療意見書に記入していない場合を示す。「不明」とは、「無記入」、及びコンピュータ入出力ミス等により不明の場合を示す。また、「無記入他」とは、上記の「不明」のみでなく、本来ありえない値が入力されていた場合も含む。

## 1) 悪性新生物

「悪性新生物」の登録者9522人（53都府県市の資料）に関する統計を、表1-1～表1-3に示す。「悪性新生物」の全登録者、すなわち有病者9522人の統計を表1-1に、新規登録者、すなわち主として1年間の発病者1466人の統計を表1-2に、そして「急性リンパ性白血病」2318人の解析結果を表1-3に示す。いずれの登録者も、女子より男子にやや多く、県単での登録者はほとんどいなかった。

有病者、発病者とも頻度が高い順に、白血病（悪性新生物の有病者の35.6%、発病者の34.9%）、脳腫瘍（各々18.1%、19.5%）、神経芽細胞腫（各々12.8%、11.4%）、悪性リンパ腫（各々7.1%、6.9%）、網膜芽細胞腫（各々5.0%、4.3%）であり、これらの5疾患で悪性新生物の80%近くを占めていた。

しかし、Wilms腫瘍は、有病者の6位で2.7%を占めていたが、発病者の1.8%であり、継続申請が比較的多かった。逆に骨肉腫は、有病者の2.4%、発病者の4.0%であり、比較的新規申請のみの頻度が高かった。その他、有病者が多い順に、横紋筋肉腫、肝芽細胞腫、脊髄腫瘍、卵巣悪性腫瘍であった。

急性リンパ性白血病の発病は、2～5歳に多く、その後17歳頃まで小児期全般にわたって登録されていた。新規申請者に比べて、継続申請者は5倍以上であり、発病から平均5年以上経過観察または治療されていると考えられる。

F A B分類別の比較では、新規登録者の割合は、L1が147/1067、L2が63/250とL1に新規登録者の割合が有意に少なく（ $p < 0.001$ ）、「治癒+寛解+改善」：「不変+再燃+悪化」は、L1が898:55、L2が193:20とL1に「治癒+寛解+改善」の割合が多く（ $p < 0.05$ ）、L1の予後が比較的良好だった。

マススクリーニングで発見された神経芽細胞腫は488人が登録されていた。今後、スクリーニングを受検しないで発見された患児121人と、発病時期等をマッチさせた予後の比較検討が望まれる。

表1-1、悪性新生物（新規+継続等）

Malignant Neoplasms

（合計9522人）、（新規診断1466人、継続7048人、転入78人、無記入930人）  
（男子5049人、女子4201人、無記入272人）  
（国の小慢事業9516人、県単独事業6人）

岩手県235人、宮城県303人、秋田県94人、茨城県366人、群馬県28人、千葉県298人、東京都1299人、神奈川県293人、新潟県221人、富山県104人、福井県139人、山梨県120人、静岡県370人、三重県240人、京都府220人、

大阪府762人、奈良県195人、和歌山県92人、岡山県109人、広島県249人、山口県157人、徳島県120人、香川県165人、愛媛県217人、高知県60人、佐賀県16人、熊本県186人、大分県123人、宮崎県165人、鹿児島県73人、沖縄県226人、札幌市375人、千葉市148人、名古屋市228人、神戸市39人、広島市32人、北九州市179人、宇都宮市62人、新潟市109人、富山市52人、金沢市73人、岐阜市47人、浜松市63人、豊田市13人、堺市126人、和歌山市52人、岡山市103人、福山市108人、高知市56人、長崎市93人、熊本市121人、大分市88人、鹿児島市110人の53都府県市の集計結果

疾患名	ICD10	人数(人)	%
舌癌	C02.9	1	0.0
上咽頭悪性腫瘍	C11.9	7	0.1
胃肉腫	C16.9	2	0.0
結腸癌	C18.9	4	0.0
直腸癌	C20	2	0.0
肝臓の悪性腫瘍	C22.9等	189	2.0
肝細胞癌(再掲)	C22.0	4	0.0
肝内胆管癌(再掲)	C22.1	1	0.0
肝芽(細胞)腫(再掲)	C22.2	173	1.8
肝肉腫(再掲)	C22.4	5	0.1
膵臓の悪性腫瘍	C25.9等	10	0.1
膵島細胞癌(再掲)	C25.4	4	0.0
肺癌	C34.9	2	0.0
悪性胸腺腫	C37	1	0.0
縦隔悪性腫瘍	C38.3	9	0.1
悪性骨腫瘍	C41.9等	330	3.5
骨肉腫(再掲)	C41.9A	232	2.4
Ewing腫瘍(再掲)	C41.9B	56	0.6
軟骨肉腫(再掲)	C41.9C	21	0.2
悪性骨巨細胞腫(再掲)	C41.9D	2	0.0
脊索腫(再掲)	C41.9E	5	0.1
悪性黒色腫	C43.9	14	0.1
悪性顆粒細胞腫	C44.9A	1	0.0
悪性神経鞘腫	C47.9	4	0.0
結合組織・軟部組織の悪性腫瘍			
(以下、再掲)	C49.9等	289	3.0
横紋筋肉腫	C49.9A	184	1.9
細網(細胞)肉腫	C49.9B	20	0.2
脂肪肉腫	C49.9C	11	0.1

悪性血管内皮腫	C49.9D	6	0.1
悪性線維性組織球腫	C49.9E	9	0.1
滑膜肉腫	C49.9F	9	0.1
線維肉腫	C49.9G	26	0.3
平滑筋肉腫	C49.9H	11	0.1
腺筋肉腫	C49.9I	1	0.0
悪性間葉腫	C49.9J	3	0.0
膵腺癌	C52	1	0.0
卵巣悪性腫瘍	C56C等	77	0.8
未分化胚細胞腫(再掲)	C56A	30	0.3
絨毛上皮腫	C58	3	0.0
前立腺悪性腫瘍	C61	1	0.0
睪丸悪性腫瘍	C62.9C等	37	0.4
未分化胚細胞腫(再掲)	C62.9A	10	0.1
男女性胚細胞腫(再掲)	C62.9B	1	0.0
腎臓の悪性腫瘍	C64D等	290	3.0
Wilms腫瘍(再掲)	C64A	259	2.7
腎細胞癌(再掲)	C64B	12	0.1
膀胱肉腫	C67.9	1	0.0
網膜芽細胞腫	C69.2A	477	5.0
甲状腺癌	C73	51	0.5
悪性褐色細胞腫	C74.1	1	0.0
神経芽細胞腫	C74.9	1220	12.8
(マスキングで発見：488人、 その他で発見：262人、この内マスキング 受検有：109人、受検無：121人、 無記入：470人)			
卵黄嚢癌	C76.3A	40	0.4
仙尾部悪性奇形腫	C76.3B	13	0.1
骨盤内悪性腫瘍	C76.3C	5	0.1
転移性肺腫瘍	C78.0	1	0.0
悪性カルチノイド	C80B	1	0.0
悪性リンパ腫	C85.9B等	672	7.1
(以下、再掲)			
非ホジキンリンパ腫	C85.9A	59	0.6
ホジキン病	C81.9	64	0.7
組織球型細網肉腫	C83.3B	4	0.0
バーキットリンパ腫	C83.7	15	0.2
T細胞リンパ腫	C84.5	1	0.0
リンパ肉腫	C85.0	7	0.1
多発性骨髄腫	C90.0	5	0.1
本態性M蛋白血症	C90.2	3	0.0
白血病(以下、再掲)	C95.9A等	3387	35.6
急性リンパ性白血病	C91.0	2318	24.3
(詳細は表1 - 3参照)			

白血病性細網内皮症C91.4	67	0.7	髄膜腫	D32.9A	15	0.2
急性骨髓性白血病 C92.0	495	5.2	トルコ鞍部髄膜腫	D32.9B	1	0.0
(FAB分類, M1:37人, M2:123人, M3:23人, M4:33人, M5:24人, M6: 6人, M7:39人, 無記入他:210人)			脈絡叢乳頭腫	D33.0	9	0.1
慢性骨髓性白血病 C92.1	91	1.0	小脳血管芽(細胞)腫D33.1		4	0.0
緑色腫 C92.3	1	0.0	下垂体腺腫	D35.2	18	0.2
急性前骨髓球性白血病C92.4	20	0.2	テント上腫瘍	D43.0	15	0.2
(FAB分類, M3:12人, 無記入他: 8人)			橋腫瘍	D43.1A	4	0.0
急性骨髓単球性白血病C92.5	7	0.1	小脳腫瘍	D43.1B	78	0.8
(FAB分類, M4: 5人, 無記入他: 2人)			第4脳室腫瘍	D43.1C	4	0.0
好酸球性白血病 C92.7	2	0.0	テント下腫瘍	D43.1D	3	0.0
骨髓性白血病 C92.9	13	0.1	脳幹部腫瘍	D43.1E	29	0.3
急性単球性白血病 C93.0	31	0.3	視床腫瘍	D43.2A	1	0.0
(FAB分類, M5:21人, 無記入他:10人)			視床下部腫瘍	D43.2C	12	0.1
赤白血病 C94.0	1	0.0	硬膜外腫瘍	D43.2D	3	0.0
急性非リンパ性白血病C95.0A	26	0.3	聴神経腫瘍	D43.3	1	0.0
(FAB分類, M1: 3人, M4: 3人, M5: 2人, M7: 3人, 無記入他:15人)			頭蓋咽頭腫	D44.4	102	1.1
急性芽球性白血病 C95.0B	20	0.2	松果体腫	D44.5	77	0.8
(FAB分類, M7:11人, 無記入他: 9人)			頭蓋内腫瘍	D48.9	17	0.2
急性白血病 C95.0C	161	1.7	転移性脳腫瘍	C79.3	1	0.0
(FAB分類, L1:58人, L2:11人, L3: 0人, M1:1人, M2:6人, M3:1人, M4:1人, M5:4人, M6:1人, M7:5人, 無記入他:73人)			脊髄腫瘍	D43.4	84	0.9
中枢神経白血病 C95.9B	1	0.0	神経鞘腫	D36.1A	14	0.1
先天性白血病 C95.9C	5	0.1	神経節細胞腫	D36.1B	3	0.0
骨髓異形成症候群(前白血病状態)			奇形腫	D36.9	50	0.6
D46.9	8	0.1	卵巣腫瘍	D39.1	4	0.0
レット・ジーン病 C96.0	7	0.1	(本来は内分泌疾患に分類)			
(本来は血友病等血液疾患に分類)			睾丸腫瘍	D40.1	5	0.1
悪性組織球症 C96.1	66	0.7	(本来は内分泌疾患に分類)			
脳腫瘍(以下、再掲)D43.2E等	1724	18.1	悪性青色母斑	D22.9	1	0.0
脳室上衣腫 C71.5	29	0.3	クモ膜嚢胞	G93.0	24	0.3
小脳星細胞腫 C71.6	20	0.2	その他の悪性腫瘍	C80C	209	2.2
神経膠腫 C71.9A	91	1.0	その他の芽腫	C80D	33	0.3
神経膠芽細胞腫 C71.9B	13	0.1	その他の癌	C80E	53	0.6
多形膠芽腫 C71.9C	2	0.0	その他の肉腫	C80F	51	0.5
神経星細胞腫 C71.9D	51	0.5	不明(コンピュータ入力等)		35	0.4
髄上皮腫 C71.9E	3	0.0				
神経上皮腫 C71.9F	11	0.1				
髄芽(細胞)腫 C71.9G	98	1.0				
視神経膠腫 C72.3	29	0.3				
下垂体膠腫 C75.1	1	0.0				
クモ膜嚢腫 D32.0	21	0.2				

表1 - 2、悪性新生物(新規診断のみ)

Malignant Neoplasms

(新規診断1466人のみ)

(男子782人、女子662人、無記入22人)

(国の小慢事業1465人、県単独事業1人)

疾患名	ICD10	人数(人)	%
舌癌	C02.9	1	0.1
上咽頭悪性腫瘍	C11.9	2	0.1

結腸癌	C18.9	3	0.2	白血病(以下、再掲)C95.9A等	511	34.9
直腸癌	C20	1	0.1	急性リンパ性白血病C91.0	319	21.8
肝臓の悪性腫瘍	C22.9等	30	2.0	(詳細は表1 - 3参照)		
肝細胞癌(再掲)	C22.0	2	0.1	白血病性細網内皮症C91.4	24	1.6
肝芽(細胞)腫(再掲)	C22.2	26	1.8	急性骨髄性白血病 C92.0	85	5.9
肝肉腫(再掲)	C22.4	1	0.1	慢性骨髄性白血病 C92.1	15	1.0
縦隔悪性腫瘍	C38.3	3	0.2	急性前骨髄球性白血病C92.4	3	0.2
悪性骨腫瘍	C41.9等	77	5.3	急性骨髄単球性白血病C92.5	1	0.1
骨肉腫(再掲)	C41.9A	59	4.0	骨髄性白血病 C92.9	2	0.1
Ewing腫瘍(再掲)	C41.9B	9	0.6	急性単球性白血病 C93.0	8	0.5
軟骨肉腫(再掲)	C41.9C	2	0.1	急性非リンパ性白血病C95.0A	4	0.3
脊索腫(再掲)	C41.9E	1	0.1	急性芽球性白血病 C95.0B	6	0.4
悪性黒色腫	C43.9	3	0.2	急性白血病 C95.0C	24	1.6
結合組織・軟部組織の悪性腫瘍				骨髄異形成症候群(前白血病状態)		
(以下、再掲)	C49.9等	39	2.7	D46.9	2	0.1
横紋筋肉腫	C49.9A	27	1.8	レット・ジーン病 C96.0	3	0.2
細網(細胞)肉腫	C49.9B	3	0.2	(本来は血友病等血液疾患に分類)		
悪性血管内皮腫	C49.9D	1	0.1	悪性組織球症 C96.1	21	1.4
滑膜肉腫	C49.9F	2	0.1	脳腫瘍(以下、再掲)D43.2E等	286	19.5
線維肉腫	C49.9G	3	0.2	脳室上衣腫 C71.5	5	0.3
平滑筋肉腫	C49.9H	2	0.1	小脳星細胞腫 C71.6	3	0.2
腺筋肉腫	C49.9I	1	0.1	神経膠腫 C71.9A	19	1.3
腔腺癌	C52	1	0.1	神経膠芽細胞腫 C71.9B	6	0.4
卵巣悪性腫瘍	C56C等	16	1.1	神経星細胞腫 C71.9D	12	0.8
未分化胚細胞腫(再掲)	C56A	3	0.2	神経上皮腫 C71.9F	3	0.2
睾丸悪性腫瘍	C62.9C等	2	0.1	髓芽(細胞)腫 C71.9G	18	1.2
未分化胚細胞腫(再掲)	C62.9A	2	0.1	視神経膠腫 C72.3	3	0.2
腎臓の悪性腫瘍	C64D等	30	2.0	クモ膜嚢腫 D32.0	1	0.1
Wilms腫瘍(再掲)	C64A	26	1.8	髄膜腫 D32.9A	4	0.3
腎細胞癌(再掲)	C64B	2	0.1	脈絡叢乳頭腫 D33.0	1	0.1
網膜芽細胞腫	C69.2A	63	4.3	小脳血管芽(細胞)腫D33.1	1	0.1
甲状腺癌	C73	10	0.7	テント上腫瘍 D43.0	4	0.3
神経芽細胞腫	C74.9	167	11.4	橋腫瘍 D43.1A	1	0.1
(マスキングで発見：75人、 その他で発見：45人、この内マスキング 受検有：19人、受検無：21人、 無記入：47人)				小脳腫瘍 D43.1B	14	1.0
卵黄嚢癌	C76.3A	4	0.3	第4脳室腫瘍 D43.1C	1	0.1
仙尾部悪性奇形腫	C76.3B	3	0.2	脳幹部腫瘍 D43.1E	6	0.4
骨盤内悪性腫瘍	C76.3C	2	0.1	視床下部腫瘍 D43.2C	2	0.1
悪性リンパ腫	C85.9B等	101	6.9	硬膜外腫瘍 D43.2D	1	0.1
(以下、再掲)				頭蓋咽頭腫 D44.4	12	0.8
非ホジキンリンパ腫C85.9A		4	0.3	松果体腫 D44.5	11	0.8
ホジキン病	C81.9	9	0.6	頭蓋内腫瘍 D48.9	4	0.3
バーキットリンパ腫C83.7		2	0.1	脊髄腫瘍 D43.4	16	1.1
				奇形腫 D36.9	4	0.3
				クモ膜嚢胞 G93.0	7	0.5
				その他の悪性腫瘍 C80C	30	2.0

その他の芽腫	C80D	6	0.4	4歳20人、5歳30人、6歳17人、7歳12人、
その他の癌	C80E	8	0.5	8歳15人、9歳15人、10歳12人、11歳15人、
その他の肉腫	C80F	10	0.7	12歳8人、13歳14人、14歳8人、15歳8人、
不明(コンピュータ入力等)		4	0.3	16歳7人、17歳5人、18歳1人、不明12人

### 表1-3、急性リンパ性白血病

(合計2318人)、(新規診断319人、  
継続1730人、転入22人、無記入247人)  
(男子1223人、女子1002人、無記入93人)

#### ペルオキシダーゼ

- :989人、±:6人、+:9人、無記入:1314人

#### エステラーゼ

- :663人、±:9人、+:6人、無記入:1640人

#### FAB分類別登録児数

L1:1067人(男551人、女453人、無記入63人)

L2:250人(男135人、女107人、無記入8人)

L3:19人(男12人、女6人、無記入1人)

不明:982人(男525人、女436人、無記入21人)

#### FAB分類別の経過

L1: 治癒 39人、寛解 839人、改善 20人、  
不変 37人、再燃 18人、悪化 0人、  
判定不能 22人、不明 92人

L2: 治癒 5人、寛解 176人、改善 12人、  
不変 12人、再燃 5人、悪化 3人、  
判定不能 6人、不明 31人

L3: 治癒 1人、寛解15人、悪化1人、不明2人

#### 全登録児の診断時年齢

0歳12人、1歳25人、2歳59人、3歳95人、  
4歳99人、5歳118人、6歳124人、7歳120人、  
8歳133人、9歳143人、10歳144人、11歳117人、  
12歳150人、13歳138人、14歳122人、15歳136人、  
16歳141人、17歳103人、18歳86人、19歳68人、  
不明185人

#### 全登録児の発病年齢

0歳70人、1歳142人、2歳341人、3歳295人、  
4歳241人、5歳171人、6歳145人、7歳111人、  
8歳83人、9歳69人、10歳57人、11歳59人、  
12歳45人、13歳54人、14歳36人、15歳30人、  
16歳14人、17歳14人、18歳2人、不明339人

#### 新規診断児319人のFAB分類別登録児数

L1:147人、L2:63人、L3:3人、不明106人

#### 新規診断児319人の発病年齢

0歳13人、1歳21人、2歳45人、3歳41人、

### 2) 慢性腎疾患

「慢性腎疾患」の登録者7517人(55都府県市の資料)に関する統計を、表2-1~表2-4に示す。県単も含めた「慢性腎疾患」の全登録者7517人の統計を表2-1に示すが、この内容は、一部の地域で通院も含めた登録者数である。そこで地域差を比較する意味で、国の小慢事業のみによる登録者3688人の統計を表2-2に示す。

県単も含めた「慢性糸球体腎炎」1999人の解析結果を表2-3に、「ネフローゼ症候群」2176人の解析結果を表2-4に示す。前者の登録者はやや女子に多く、後者は男子に多かった。

慢性糸球体腎炎は、県単での登録者が比較的多かった。この場合、蛋白尿・血尿の通院による経過観察を含められていると考えられる。そのためか発病年齢は、3歳児健康診査と小学校の学校検尿で発見される年齢、すなわち3歳と、6~12歳が比較的多かった。血清IgA値の高い症例が一部にみられ、また約2/3の症例では腎生検を実施していなかったため、IgA腎症も含まれていると考えられる。

ネフローゼ症候群は、県単での登録者は比較的少なかった。発病年齢は2~4歳が多く、登録者の年齢はその頃から小中学生まで幅広くみられた。経過は「寛解」、検査結果は正常である症例が比較的多かった。

慢性腎不全患児の17%が、成長ホルモン治療用意見書を提出していた。

### 表2-1、慢性腎疾患(県単も含む)

#### Chronic Renal Diseases

(合計7517人)、(新規診断1932人、  
継続4227人、転入38人、無記入1320人)  
(男子4072人、女子3119人、無記入326人)  
(国の小慢事業3688人、県単独事業3829人)

岩手県55人、宮城県78人、秋田県34人、

茨城県82人、群馬県36人、千葉県107人、東京都2392人、神奈川県231人、新潟県71人、富山県47人、石川県46人、福井県25人、山梨県24人、岐阜県42人、静岡県87人、三重県60人、京都府95人、大阪府482人、奈良県77人、和歌山県23人、岡山県35人、広島県874人、山口県58人、徳島県31人、香川県33人、愛媛県34人、高知県78人、佐賀県12人、熊本県12人、大分県30人、宮崎県71人、鹿児島県31人、沖縄県73人、札幌市110人、千葉市37人、名古屋市559人、神戸市40人、広島市95人、北九州市21人、宇都宮市75人、新潟市42人、富山市18人、金沢市15人、岐阜市8人、浜松市12人、豊田市15人、堺市603人、和歌山市7人、岡山市14人、福山市187人、高知市59人、長崎市25人、熊本市65人、大分市14人、鹿児島市30人の55都府県市の集計結果

疾患名	ICD10	人数(人)	%
Goodpasture症候群	M31.0	2	0.0
急速進行性糸球体腎炎	N01.9	7	0.1
慢性腎炎症候群	N03.9等	2083	27.7
(以下、再掲)			
慢性糸球体腎炎	N03.9	1999	26.6
(詳細は表2-3参照)			
慢性増殖性糸球体腎炎	N03.8	9	0.1
遷延性糸球体腎炎	N05.8	75	1.0
ネフローゼ症候群	N04等	2176	28.9
(詳細は表2-4参照)			
微小変化型(再掲)	N04.0	91	1.2
先天性(再掲)	N04.9B	7	0.1
遺伝性腎炎	N07.9等	53	0.7
Alport症候群(再掲)	Q87.8B	16	0.2
二次性腎炎		873	11.6
IgA腎症(再掲)	N02.8A	310	4.1
(血清IgA、不明:72人、400mg/dl未満:210人、400~499mg/dl:18人、500mg/dl以上:10人)			
IgM腎症(再掲)	N02.8B	8	0.1
紫斑病性腎炎(再掲)	D69.0B	555	7.4
メサングウム増殖性腎炎	N05.3	8	0.1
びまん性(再掲)	N05.3A	6	0.1
巣状(再掲)	N05.3B	2	0.0
巣状分節性糸球体硬化症	N05.1A	32	0.4
膜性増殖性糸球体腎炎	N05.5	32	0.4

膜性腎症	N05.2	34	0.5
先天性腎奇形		249	3.3
(以下、再掲)			
多発性嚢胞腎	Q61.3	63	0.8
腎嚢胞	Q61.0	21	0.3
異形成腎	Q61.4	10	0.1
腎低形成	Q60.5A	88	1.2
腎無形成	Q60.2	8	0.1
家族性若年性初発ろう	N25.8D	6	0.1
腎杯または腎盂の憩室	Q63.8	1	0.0
尿路の奇形等	Q62.8	36	0.5
腎の奇形等	Q63.9	16	0.2
慢性間質性腎炎	N11.9	945	12.6
間質性腎炎	N12	1	0.0
腎周囲膿瘍	N15.1	3	0.0
閉塞性腎症		815	10.8
(以下、再掲)			
水腎症	N13.3	761	10.1
水尿管症	N13.4	14	0.2
巨大水尿管症	Q62.2	28	0.4
尿路閉塞性腎機能障害	N11.1	10	0.1
閉塞性腎障害	N13.8	2	0.0
腎尿路結石症	N20.9等	16	0.2
腎結石(再掲)	N20.0	7	0.1
腎血管障害		7	0.1
(以下、再掲)			
腎動脈血栓(塞栓)	N28.0	1	0.0
腎動脈狭窄	I70.1	4	0.1
腎静脈血栓	I82.3	2	0.0
慢性腎不全	N18.9	103	1.4
(成長ホルモン治療用意見書 初回申請:11人、継続申請:6人)			
萎縮腎	N26	20	0.3
腎性くる病	N25.0	1	0.0
腎尿細管性アシトシス	N25.8	3	0.0
(本来は先天性代謝異常に分類)			
不明(コンピュータ入力ミス等)		54	0.7

表2-2、慢性腎疾患(国の事業のみ)  
Chronic Renal Diseases

(国の小慢事業3688人のみ)  
(新規診断1528人、継続2003人、  
転入18人、無記入139人)  
(男子2089人、女子1552人、無記入47人)

疾患名	ICD10	人数(人)	%
Goodpasture症候群	M31.0	1	0.0
急速進行性糸球体腎炎	N01.9	7	0.2
慢性腎炎症候群 (以下、再掲)	N03.9等	827	22.4
慢性糸球体腎炎	N03.9	773	21.0
慢性増殖性糸球体腎炎	N03.8	7	0.2
遷延性糸球体腎炎	N05.8	47	1.3
ネフローゼ症候群	N04等	1382	37.5
微小変化型(再掲)	N04.0	63	1.7
先天性(再掲)	N04.9B	7	0.2
遺伝性腎炎	N07.9等	43	1.2
Alport症候群(再掲)	Q87.8B	9	0.3
二次性腎炎		516	14.0
IgA腎症(再掲)	N02.8A	191	5.2
IgM腎症(再掲)	N02.8B	5	0.1
紫斑病性腎炎(再掲)	D69.0B	320	8.7
メサンギウム増殖性腎炎	N05.3	5	0.1
びまん性(再掲)	N05.3A	3	0.1
巣状(再掲)	N05.3B	2	0.1
巣状分節性糸球体硬化症	N05.1A	26	0.7
膜性増殖性糸球体腎炎	N05.5	21	0.6
膜性腎症	N05.2	18	0.5
先天性腎奇形 (以下、再掲)		100	2.7
多発性嚢胞腎	Q61.3	26	0.7
腎嚢胞	Q61.0	6	0.2
異形成腎	Q61.4	6	0.2
腎低形成	Q60.5A	37	1.0
腎無形成	Q60.2	2	0.1
家族性若年性初動ろろ	N25.8D	4	0.1
腎杯または腎盂の憩室	Q63.8	0	0.0
尿路の奇形等	Q62.8	13	0.4
腎の奇形等	Q63.9	6	0.2
慢性間質性腎炎	N11.9	294	8.0
間質性腎炎	N12	1	0.0
腎周囲膿瘍	N15.1	2	0.1
閉塞性腎症 (以下、再掲)		336	9.1
水腎症	N13.3	302	8.2
水尿管症	N13.4	6	0.2
巨大水尿管症	Q62.2	21	0.6
尿路閉塞性腎機能障害	N11.1	5	0.1
閉塞性腎障害	N13.8	2	0.1

腎尿路結石症	N20.9等	10	0.3
腎結石(再掲)	N20.0	5	0.1
腎血管障害 (以下、再掲)		5	0.1
腎動脈血栓(塞栓)	N28.0	1	0.0
腎動脈狭窄	I70.1	2	0.1
腎静脈血栓	I82.3	2	0.1
慢性腎不全	N18.9	61	1.7
萎縮腎	N26	8	0.2
腎性くる病	N25.0	1	0.0
腎尿細管性アジト <sup>*</sup> -症	N25.8	1	0.0
(本来は先天性代謝異常に分類)			
不明(コンピュータ入力ミス等)		23	0.6

表2-3、慢性糸球体腎炎(県単も含む)

(合計1999人)、(新規診断381人、  
継続1233人、転入9人、無記入376人)  
(男子864人、女子1046人、無記入89人)  
(国の小慢事業773人、県単独事業1226人)

#### 診断時の年齢

0歳1人、1歳1人、2歳6人、3歳28人、  
4歳31人、5歳44人、6歳52人、7歳90人、  
8歳89人、9歳99人、10歳113人、11歳149人、  
12歳143人、13歳171人、14歳199人、15歳188人、  
16歳129人、17歳142人、18歳108人、19歳65人、  
不明151人

#### 発病時の年齢

0歳36人、1歳22人、2歳53人、3歳106人、  
4歳83人、5歳59人、6歳145人、7歳110人、  
8歳95人、9歳103人、10歳72人、11歳83人、  
12歳94人、13歳64人、14歳74人、15歳20人、  
16歳7人、17歳4人、不明769人

#### 蛋白尿

0~9mg/dl: 54人、10~30mg/dl: 286人、  
31~50mg/dl: 112人、51~100mg/dl: 186人、  
101~300mg/dl: 133人、301~1000mg/dl: 35人、  
1001mg/dl以上: 7人、不明: 1186人

#### 血尿

0~5/F: 128人、6~20/F: 529人、  
21~50/F: 265人、51~100/F: 129人、  
100以上/F: 69人、不明: 879人

#### 血清クレアチニン

0.9mg/dl以下: 1530人、1.0~1.9mg/dl: 63人、

2.0~2.9mg/dl: 7人、3.0mg/dl以上: 9人、  
不明:390人

#### 血清IgA

400mg/dl未満:1287人、400~499mg/dl:50人、  
500mg/dl以上:22人、不明:640人

#### 血清C3

50mg/dl未満:61人、50~119mg/dl:1077人、  
120mg/dl以上:156人、不明:705人

#### 腎生検

有: 591人、無: 1146人、不明: 262人

#### 合併症

有: 135人、無: 1376人、不明: 488人

#### 経過

治癒: 1人、寛解: 91人、改善: 536人、  
不変: 942人、再燃: 13人、悪化: 63人、  
判定不能: 5人、不明: 348人

### 表2-4、ネフローゼ症候群(県単も含む)

(合計2176人)、(新規診断694人、  
継続1127人、転入18人、無記入337人)  
(男子1377人、女子701人、無記入98人)  
(国の小慢事業1382人、県単独事業794人)

#### 診断時の年齢

0歳4人、1歳30人、2歳90人、3歳113人、  
4歳114人、5歳112人、6歳114人、7歳104人、  
8歳104人、9歳124人、10歳119人、11歳114人、  
12歳110人、13歳141人、14歳138人、15歳94人、  
16歳97人、17歳88人、18歳75人、19歳45人、  
不明246人

#### 発病時の年齢

0歳21人、1歳112人、2歳256人、3歳232人、  
4歳190人、5歳151人、6歳138人、7歳110人、  
8歳93人、9歳78人、10歳82人、11歳61人、  
12歳68人、13歳79人、14歳64人、15歳34人、  
16歳19人、17歳16人、18歳1人、不明371人

#### 蛋白尿

0~9mg/dl: 51人、10~30mg/dl: 60人、  
31~50mg/dl: 18人、51~100mg/dl: 36人、  
101~300mg/dl:124人、301~1000mg/dl:300人、  
1001mg/dl以上: 349人、不明: 1238人

#### 血尿

0~5/F: 146人、6~20/F: 117人、  
21~50/F: 46人、51~100/F: 18人、

100以上/F: 15人、不明: 1834人

#### 血清総蛋白

2.9g/dl以下: 4人、3.0~3.9g/dl: 307人、  
4.0~4.9g/dl: 430人、5.0~5.9g/dl: 233人、  
6.0~6.9g/dl: 453人、7.0~7.9g/dl: 355人、  
8.0g/dl以上:17人、不明:377人

#### 血清アルブミン

0.9g/dl以下: 18人、1.0~1.9g/dl: 459人、  
2.0~2.9g/dl: 326人、3.0~3.9g/dl: 231人、  
4.0~4.9g/dl: 555人、5.0g/dl以上: 46人、  
不明: 541人

#### 血清総コレステロール

99mg/dl以下: 11人、100~199mg/dl: 631人、  
200~299mg/dl:376人、300~399mg/dl:307人、  
400~499mg/dl:260人、500~599mg/dl:106人、  
600~699mg/dl:42人、700mg/dl以上: 20人、  
不明: 423人

#### 血清クレアチニン

0.9mg/dl以下:1651人、1.0~1.9mg/dl: 52人、  
2.0~2.9mg/dl: 5人、3.0mg/dl以上: 13人、  
不明: 455人

#### 血清C3

50mg/dl未満: 32人、50~119mg/dl: 717人、  
120mg/dl以上: 293人、不明: 1134人

#### 腎生検

有: 441人、無: 1369人、不明: 366人

#### 合併症

有: 345人、無: 1256人、不明: 575人

#### 経過

治癒: 10人、寛解: 780人、改善: 281人、  
不変: 275人、再燃: 214人、悪化: 36人、  
判定不能: 50人、不明: 530人

### 3) ぜんそく

「ぜんそく」の登録者5547人(56都府県市の資料)に関する統計を、表3-1~表3-2に示す。女子に比べ、男子の登録者が多かった。

登録者数の地域差が多かった。この理由は、通院も含めた県単として小慢事業対象にし、登録者数が多い地域がある反面、東京都のように通院も認める別の助成制度「大気汚染にかかわる医療費助成制度」があるため、小慢事業としてはほとんど登録されない地域があるためである。したがって表3-1では、疫学的な地域差

の比較はできない。

「気管支喘息」5505人に関して、重症度別、発病時の年齢、及び経過を表3-2に示す。重症児の発病年齢は0～1歳が比較的多いものの、中学生で発病した場合、重症化しやすかった。また、経過は、軽症<中等症<重症の順に「不変、再燃、悪化」の割合が多かった。

表3-1、ぜんそく, Asthma (合計5547人)

(新規診断3139人、継続2292人、  
転入24人、無記入92人)  
(男子3392人、女子2127人、無記入28人)  
(国の小慢事業4618人、県単独事業929人)

岩手県28人、宮城県30人、秋田県18人、茨城県97人、群馬県96人、千葉県348人、東京都10人、神奈川県197人、新潟県145人、富山県51人、石川県516人、福井県12人、山梨県11人、岐阜県18人、静岡県28人、愛知県60人、三重県37人、京都府380人、大阪府1396人、奈良県67人、和歌山県9人、岡山県19人、広島県12人、山口県27人、徳島県7人、香川県7人、愛媛県17人、高知県4人、佐賀県14人、熊本県14人、大分県42人、宮崎県58人、鹿児島県36人、沖縄県84人、札幌市42人、千葉市64人、名古屋市200人、神戸市10人、広島市7人、北九州市28人、宇都宮市916人、新潟市84人、富山市7人、金沢市14人、岐阜市1人、浜松市18人、豊田市16人、堺市165人、和歌山市2人、岡山市10人、福山市7人、高知市3人、長崎市26人、熊本市20人、大分市3人、鹿児島市9人の56都府県市の集計結果

疾患名	ICD10	人数(人)	%
気管支喘息	J45.0	40	0.7
気管支喘息	J45.1	2	0.0
気管支喘息	J45.9	5463	98.5
(詳細は表3-2参照)			
気管支拡張症	J47	34	0.6
アレルギー性肺炎	J67.9	1	0.0
先天性気管支拡張症Q33.4		2	0.0
不明(コンピュータ入力ミス等)		5	0.1

表3-2、気管支喘息 (J45.0～J45.9合計)

(合計5505人)、(新規診断3113人、  
継続2276人、転入24人、無記入92人)  
(男子3370人、女子2108人、無記入27人)

診断時の年齢

0歳93人、1歳305人、2歳521人、3歳614人、  
4歳554人、5歳447人、6歳377人、7歳333人、  
8歳355人、9歳338人、10歳302人、11歳262人、  
12歳236人、13歳194人、14歳129人、15歳105人、  
16歳65人、17歳44人、18歳27人、19歳12人、  
不明192人

発病時の年齢

0歳664人、1歳919人、2歳803人、3歳594人、  
4歳336人、5歳211人、6歳187人、7歳122人、  
8歳118人、9歳93人、10歳78人、11歳34人、  
12歳34人、13歳16人、14歳22人、15歳8人、  
16歳6人、17歳2人、不明1258人

重症度別、発病時の年齢 (重複記載を含む)

	軽症	中等症	重症 <sup>1)</sup>	重症 <sup>2)</sup>
合計	1120人	3026人	1111人	97人
0歳	116人	373人	178人	24人
1歳	176	520	202	23
2歳	158	482	152	11
3歳	128	345	108	12
4歳	82	191	53	3
5歳	54	126	29	0
6歳	39	99	50	4
7歳	20	74	33	3
8歳	28	59	24	2
9歳	20	44	25	2
10歳	10	45	20	1
11歳	6	23	1	1
12歳	6	19	7	0
13歳	1	8	6	0
14歳	3	13	6	0
15～17歳	1	8	5	1
不明	272人	597人	212人	10人

注1) 発作回数別に集計した重症例

注2) ステロイド依存例、または意識障害を伴う大発作例

重症度別の経過（重複記載を含む）

	軽症	中等症	重症 1 <sup>1)</sup>	重症 2 <sup>2)</sup>
合計	1120人	3026人	1111人	97人
治癒	0	2	1	0
寛解	86	137	25	3
改善	572	1028	281	25
不変	201	887	371	28
再燃	17	95	60	3
悪化	35	251	144	11
判定不能	36	44	11	1
不明	173人	582人	218人	26人

4) 慢性心疾患

「慢性心疾患」の登録者12052人（56都府県市の資料）に関する統計を、表4-1～表4-4に示す。東京都等、通院も含めて県単として小慢事業対象にしている地域では、登録者数が多かった。

県単も含めた「慢性心疾患」の全登録者12052人の統計を表4-1に示す。頻度が高い順に、心室中隔欠損症29.2%、川崎病と冠動脈瘤11.2%、心房中隔欠損症10.0%、Fallot四徴症6.5%、肺動脈狭窄症5.9%、動脈管開存症3.4%、完全大血管転位症2.3%、心内膜床欠損2.1%、大動脈狭窄症2.1%、冠動脈拡張症2.0%であった。

先天性心疾患である3疾患、「心室中隔欠損症」3514人の解析を表4-2に、「心房中隔欠損症」1209人の解析を表4-3に、「Fallot四徴症」778人の解析を表4-4に示す。心房中隔欠損症は女子にやや多く、Fallot四徴症は男子にやや多かった。

先天性心疾患である3疾患の登録者数は、年齢とともに減少傾向がみられた。ただし各疾患により、発見されやすい年齢、根治手術したり育成医療給付を受けることが多い年齢は異なり、また心室中隔欠損症では一部が自然治癒するため、減少しやすい年齢は若干異なっていた。いずれの疾患も、症状や心電図・胸部X線所見は、各疾患特有の傾向を示す症例が多いものの、必ずしも典型的とはいえない所見もみられた。先天性心疾患は、重複している症例、合併症をもつ症例が比較的多く、また術後の症例も多く含まれているためと考えられる。

表4-1、慢性心疾患

Chronic Heart Diseases

（合計12052人）、（新規診断2755人、継続6253人、転入63人、無記入2981人）  
（男子5962人、女子5479人、無記入611人）  
（国の小慢事業5199人、県単独事業6853人）

岩手県59人、宮城県18人、秋田県26人、茨城県29人、群馬県104人、千葉県133人、東京都4998人、神奈川県102人、新潟県170人、富山県52人、石川県104人、福井県18人、山梨県28人、岐阜県20人、静岡県35人、愛知県30人、三重県32人、京都府203人、大阪府1412人、奈良県187人、和歌山県21人、岡山県36人、広島県1649人、山口県38人、徳島県10人、香川県20人、愛媛県19人、高知県7人、佐賀県3人、熊本県4人、大分県16人、宮崎県66人、鹿児島県69人、沖縄県79人、札幌市100人、千葉市17人、名古屋市25人、神戸市27人、広島市240人、北九州市30人、宇都宮市245人、新潟市62人、富山市15人、金沢市8人、岐阜市9人、浜松市9人、豊田市2人、堺市946人、和歌山市10人、岡山市12人、福山市414人、高知市6人、長崎市7人、熊本市8人、大分市26人、鹿児島市37人の56都府県市の集計結果

疾患名	ICD10	人数(人)	%
<b>心筋症</b>			
心筋症(以下、再掲)	I42.9等	117	1.0
特発性拡張型心筋症	I42.0	3	0.0
（特定疾患対象）			
(特発性)肥大型閉塞性心筋症	I42.1	3	0.0
(特発性)肥大型心筋症	I42.2	64	0.5
心内膜線維弾性症	I42.4	9	0.1
特発性拘束型心筋症	I42.5	4	0.0
心型Fabry病	I42.9D	1	0.0
拡張相肥大型心筋症	I42.9F	1	0.0
<b>調律異常</b>			
房室ブロック	I44.3等	100	0.8

(以下、再掲)			
第 度房室ブロック	I44.0	3	0.0
第 度房室ブロック	I44.1	7	0.1
完全房室ブロック	I44.2	60	0.5
高度房室ブロック	I44.2A	3	0.0
脚ブロック	I45.4等	10	0.1

(以下、再掲)			
左脚ブロック	I44.7	1	0.0
右脚ブロック	I45.1	6	0.0
洞房ブロック	I45.5	3	0.0
早期興奮症候群	I45.6	8	0.1
WPW症候群	I45.6A	114	0.9
完全心ブロック	I45.9等	40	0.3

(以下、再掲)			
双ノカド 症候群	I45.9B	2	0.0
QT延長症候群	I45.9D	36	0.3
心房性期外収縮	I49.1	16	0.1
心室性期外収縮	I49.3	166	1.4
上室性期外収縮	I49.4	22	0.2
上室性不整脈	I49.8	3	0.0
上室性頻拍	I47.1等	110	0.9

(以下、再掲)			
発作性上室性頻拍	I47.1A	65	0.5
非発作性上室性頻拍	I47.1B	8	0.1
心室性頻拍	I47.2等	61	0.5

(以下、再掲)			
発作性心室性頻拍	I47.2A	6	0.0
固有心室性調律	I47.2C	1	0.0
発作性頻拍	I47.9A	32	0.3
非発作性頻拍	I47.9B	3	0.0
心房細動	I48	9	0.1
心室粗・細動	I49.0	1	0.0
洞不全症候群	I49.5	22	0.2
房室解離	I45.8	1	0.0

### 先天性心疾患等

心房中隔欠損症	Q21.1	1209	10.0
(詳細は表4 - 3参照)			
心内膜床欠損	Q21.2等	249	2.1
(以下、再掲)			
不完全型心内膜床欠損	Q21.2A	4	0.0
完全型心内膜床欠損	Q21.2B	51	0.4
単心房	Q20.8	19	0.2
心室中隔欠損症	Q21.0	3514	29.2
(詳細は表4 - 2参照)			

単心室	Q20.4	130	1.1
左室右房交通症	Q21.0A	2	0.0
動脈管開存症	Q25.0	412	3.4
大動脈肺動脈中隔欠損症	Q21.4	5	0.0
冠動脈異常	Q24.5等	428	3.6

(以下、再掲)			
左冠動脈肺動脈起始症	Q24.5A	4	0.0
右冠動脈肺動脈起始症	Q24.5B	2	0.0
両冠動脈肺動脈起始症	Q24.5C	3	0.0
冠動静脈ろう	Q24.5D	10	0.1
冠動脈ろう	Q24.5E	6	0.1
冠動脈拡張症	Q24.5F	238	2.0
冠動脈狭窄症	Q24.5G	3	0.0
大動脈奇形	Q25.4等	14	0.1

(以下、再掲)			
血管輪	Q25.4C	6	0.0
大動脈瘤	Q25.4E	1	0.0
右鎖骨下動脈起始異常症	Q25.4G	1	0.0
ヴァルサルヴァ洞動脈瘤	Q25.4H	3	0.0
大動脈・左室トシ	Q25.4I	1	0.0
肺静脈還流異常	Q26.4	5	0.0
部分的肺静脈還流異常症	Q26.3	21	0.2
ミタ 症候群	Q26.8C	6	0.0
総肺静脈還流異常症	Q26.2	127	1.1
三心房心	Q24.2	16	0.1
三尖弁閉鎖症	Q22.4	92	0.8
三尖弁狭窄症	Q22.4B	1	0.0
エー スティ奇形	Q22.5	76	0.6
右心室低形成症	Q22.6	4	0.0
三尖弁閉鎖不全	I07.1	29	0.2
三尖弁異常	Q22.9	1	0.0
肺動脈弁閉鎖症	Q22.0	35	0.3
肺動脈弁閉鎖不全症	Q22.2	12	0.1
肺動脈閉鎖症	Q25.5	127	1.1
肺動脈狭窄症	Q25.6等	708	5.9

(以下、再掲)			
肺動脈弁下狭窄症	Q24.3	3	0.0
肺動脈弁狭窄症	I37.0	391	3.2
肺動脈弁異形成	Q22.3	1	0.0
肺動脈形成不全	Q25.7	11	0.1
Fallot四徴症	Q21.3	778	6.5
(詳細は表4 - 4参照)			
右室二腔症	Q21.0B	17	0.1
Uhl奇形	Q24.8A	1	0.0
右胸心	Q24.0	35	0.3

総動脈幹遺残症	Q20.0	27	0.2
僧帽弁閉鎖症	Q23.2	14	0.1
僧帽弁狭窄症	I05.0	15	0.1
僧帽弁閉鎖不全症	I34.0	165	1.4
僧帽弁逸脱症候群	I34.1	28	0.2
大動脈狭窄症	Q23.0	249	2.1
(以下、再掲)			
大動脈弁狭窄症	Q23.0A	144	1.2
大動脈弁下狭窄症	Q23.0B	4	0.0
大動脈弁上狭窄症	Q23.0C	31	0.3
大動脈弁閉鎖不全症	Q23.1	43	0.4
左心低形成症候群	Q23.4	15	0.1
大動脈弁閉鎖症	Q23.4A	3	0.0
大動脈縮窄症	Q25.1	181	1.5
大動脈弓閉鎖	Q25.3	32	0.3
下大静脈左房交通症	Q26.8B	1	0.0
アテローム性動脈硬化症候群	Q21.8	3	0.0
Fal lot三徴症	Q21.9	3	0.0
完全大血管転位症	Q20.3	279	2.3
修正大血管転位症	Q20.5	57	0.5
両大血管右室起始症	Q20.1	188	1.6
タリク・ビング症候群	Q20.1A	1	0.0
<b>その他</b>			
無脾症	Q89.0	30	0.2
脾形成不全性血小板増加症	Q89.0	2	0.0
(本来は血友病等血液疾患に分類)			
多脾症候群	Q89.0A	5	0.0
小児原発性肺高血圧症	I27.0	48	0.4
慢性肺性心	I27.9	68	0.6
(体)動静脈ろう	Q27.3	6	0.0
体静脈異常還流症	Q27.8A	1	0.0
心臓腫瘍(粘液腫、横紋筋腫、脂肪腫、線維腫)	D48.7等	19	0.2
心臓線維腫(再掲)	D15.1B	1	0.0
収縮性心外膜炎	I31.1	1	0.0
慢性緊縮性心膜炎	I31.8	1	0.0
慢性心膜炎	I31.9	13	0.1
慢性心内膜炎	I38	3	0.0
慢性心筋炎	I51.4	186	1.5
先天性心膜欠損症	Q24.8E	16	0.1
慢性心不全	I50.9	11	0.1
心筋炎後の心肥大	I51.7	11	0.1
川崎病	M30.3	905	7.5
冠動脈瘤	I25.4	451	3.7
狭心症	I20.9	3	0.0

心筋梗塞	I21.9	3	0.0
不明(コンピュータ入力ミス等)		42	0.3

#### 表4-2、心室中隔欠損症

(合計3514人)、(新規診断528人、  
継続1822人、転入19人、無記入1145人)  
(男子1656人、女子1614人、無記入244人)  
(国の小慢事業993人、県単独事業2521人)

#### 診断時の年齢

0歳424人、1歳240人、2歳222人、3歳220人、  
4歳204人、5歳186人、6歳185人、7歳158人、  
8歳120人、9歳153人、10歳141人、11歳126人、  
12歳128人、13歳108人、14歳109人、15歳96人、  
16歳93人、17歳78人、18歳64人、19歳41人、  
不明418人

#### 症状の有無

チアノーゼ、有:88人、無:2957人、不明:469人  
食欲不振、有:314人、無:2656人、不明:544人  
多呼吸、有:366人、無:2682人、不明:466人  
体重増加不良有:496人、無:2494人、不明:524人  
易感染性、有:385人、無:2670人、不明:459人  
易疲労性、有:530人、無:2434人、不明:550人

#### 心電図の所見(重複記載を含む)

正常:1726人、右室肥大:278人、  
左室肥大:281人、両室肥大:204人、  
右房肥大:25人、左房肥大:36人、両房肥大:6人  
不整脈有:321人、無:2016人、不明:1177人

#### 胸部X線

心胸郭比、30~39%:20人、40~49%:859人、  
50~59%:1218人、60~69%:254人、  
70~79%:6人、不明:1157人  
肺血流、正常:1506人、増加:740人、  
減少:21人、不明:1247人

#### 合併症

無:2003人、有:372人、不明:1139人

#### 表4-3、心房中隔欠損症

(合計1209人)、(新規診断234人、  
継続591人、転入8人、無記入376人)  
(男子456人、女子683人、無記入70人)  
(国の小慢事業403人、県単独事業806人)

#### 診断時の年齢

0歳110人、1歳63人、2歳68人、3歳76人、  
4歳74人、5歳77人、6歳76人、7歳78人、  
8歳58人、9歳50人、10歳36人、11歳55人、  
12歳42人、13歳47人、14歳33人、15歳54人、  
16歳33人、17歳26人、18歳14人、19歳12人、  
不明127人

#### 症状の有無

チアノーゼ、有:30人、無:1047人、不明:132人  
食欲不振、有:70人、無:970人、不明:169人  
多呼吸、有:95人、無:982人、不明:132人  
体重増加不良有:156人、無:875人、不明:178人  
易感染性、有:141人、無:936人、不明:132人  
易疲労性、有:199人、無:841人、不明:169人

#### 心電図の所見（重複記載を含む）

正常:446人、右室肥大:317人、  
左室肥大:9人、両室肥大:12人、  
右房肥大:81人、左房肥大:3人、両房肥大:1人  
不整脈有:122人、無:656人、不明:431人

#### 胸部X線

心胸郭比、30～39%:4人、40～49%:313人、  
50～59%:435人、60～69%:62人、  
70～79%:5人、不明:390人  
肺血流、正常:458人、増加:366人、  
減少:9人、不明:376人

#### 合併症

無:717人、有:138人、不明:354人

#### 表4-4、Fallot四徴症

(合計778人)、(新規診断145人、  
継続388人、転入3人、無記入242人)  
(男子418人、女子315人、無記入45人)  
(国の小慢事業327人、県単独事業451人)

#### 診断時の年齢

0歳134人、1歳44人、2歳46人、3歳45人、  
4歳34人、5歳33人、6歳28人、7歳18人、  
8歳32人、9歳29人、10歳31人、11歳28人、  
12歳29人、13歳32人、14歳33人、15歳35人、  
16歳23人、17歳17人、18歳21人、19歳13人、  
不明73人

#### 症状の有無

チアノーゼ、有:206人、無:485人、不明:87人  
食欲不振、有:110人、無:562人、不明:106人

多呼吸、有:132人、無:550人、不明:96人  
体重増加不良有:201人、無:473人、不明:104人  
易感染性、有:158人、無:520人、不明:100人  
易疲労性、有:338人、無:328人、不明:112人

#### 心電図の所見（重複記載を含む）

正常:93人、右室肥大:348人、  
左室肥大:7人、両室肥大:19人、  
右房肥大:21人、左房肥大:2人、両房肥大:1人  
不整脈有:143人、無:377人、不明:258人

#### 胸部X線

心胸郭比、40～49%:67人、50～59%:366人、  
60～69%:127人、70～79%:11人、不明:207人  
肺血流、正常:358人、増加:31人、  
減少:164人、不明:225人

#### 合併症

無:341人、有:163人、不明:274人

#### 5) 内分泌疾患

「内分泌疾患」の登録者17412人（56都府県市の資料）に関する統計を表5-1に示す。頻度の高い順に、成長ホルモン分泌不全性低身長症47.9%、甲状腺機能低下症14.9%、甲状腺機能亢進症9.7%、思春期早発症7.5%、慢性甲状腺炎3.2%、先天性副腎過形成3.1%であった。

クレチン症は、その78%が新生児スクリーニングで発見され、他で発見は2%と少なかった。しかし、先天性副腎過形成は、スクリーニングで発見39%、他で発見31%と、後者が比較的多かった。

「甲状腺機能亢進症」1684人の解析を表5-2に、「思春期早発症」1298人の解析を表5-3に、「成長ホルモン分泌不全性低身長症」8333人の解析を表5-4に、「ターナー症候群」403人の解析を表5-5に示す。

甲状腺機能亢進症の登録者は、中学生以上の女子に多く、多くの症例が改善または寛解していた。思春期早発症は、小学生の女子に多く、改善する症例が比較的多かった。

成長ホルモン分泌不全性低身長症は、小中学生の男子に、ターナー症候群は、小中学生の女子に多かった。より早期からの診断・治療が望まれる。前者の85%、後者の60%が、成長ホルモン治療用意見書を提出していた。

表5 - 1、内分泌疾患, Endocrine Diseases

(合計17412人)、(新規診断3036人、  
継続13533人、転入164人、無記入679人)  
(男子8369人、女子8820人、無記入223人)  
(国の小慢事業17348人、県単独事業64人)

岩手県353人、宮城県522人、秋田県95人、  
茨城県542人、群馬県38人、千葉県452人、  
東京都1883人、神奈川県414人、新潟県266人、  
富山県251人、石川県27人、福井県190人、  
山梨県208人、岐阜県149人、静岡県781人、  
愛知県214人、三重県376人、京都府426人、  
大阪府1558人、奈良県416人、和歌山県225人、  
岡山県319人、広島県550人、山口県370人、  
徳島県149人、香川県393人、愛媛県368人、  
高知県137人、佐賀県26人、熊本県311人、  
大分県178人、宮崎県283人、鹿児島県57人、  
沖縄県538人、札幌市628人、千葉市239人、  
名古屋市659人、神戸市77人、広島市92人、  
北九州市252人、宇都宮市77人、新潟市116人、  
富山市116人、金沢市92人、岐阜市132人、  
浜松市226人、豊田市16人、堺市267人、  
和歌山市131人、岡山市208人、福山市284人、  
高知市65人、長崎市153人、熊本市222人、  
大分市116人、鹿児島市179人の56都府県市の集  
計結果

疾患名	ICD10	人数(人)	%
膵島細胞腫	D13.7	3	0.0
甲状腺腺腫	D34	74	0.4
単純甲状腺腫	E04.0	125	0.7
副甲状腺腺腫	D35.1	1	0.0
副腎腫瘍	D35.0	12	0.1
(以下、再掲)			
副腎腺腫	D35.0A	2	0.0
男性化副腎腫瘍	D35.0B	2	0.0
褐色細胞腫	D35.0D	6	0.0
異所性副腎皮質腫瘍	D44.1	1	0.0
下垂体腺腫	D35.2	7	0.0
卵巣腫瘍	D39.1	34	0.2
睪丸腫瘍	D40.1	17	0.1
甲状腺機能低下症	E03.9等	2589	14.9
(以下、再掲)			
クレチン症	E03.1A	2069	11.9

(新生児スクリーニングで発見:1623人、 他で発見:46人、不明:400人)			
先天性甲状腺機能不全症E03.1B	6	0.0	
甲状腺機能亢進症 E05.0	1684	9.7	
(詳細は表5 - 2参照)			
甲状腺中毒性ミカチ-E05.9	34	0.2	
腺腫様甲状腺腫 E04.8	33	0.2	
地方性甲状腺腫 E01.2	1	0.0	
急性甲状腺炎 E06.0	2	0.0	
亜急性甲状腺炎 E06.1	3	0.0	
慢性甲状腺炎 E06.3	555	3.2	
甲状腺炎 E06.9	11	0.1	
甲状腺機能低下症			
E07.8	3	0.0	
高インスリン血症 E16.1	18	0.1	
特発性低血糖症 E16.2	52	0.3	
グルカゴン分泌異常 E16.3	1	0.0	
高カトリン血症 E16.8	3	0.0	
インスリン分泌異常 E16.9	18	0.1	
特発性副甲状腺機能低下症			
E20.0	99	0.6	
仮性副甲状腺機能低下症E20.1	55	0.3	
先天性副甲状腺欠損症E20.9	5	0.0	
原発性副甲状腺機能亢進症			
E21.0	5	0.0	
特発性副甲状腺機能亢進症			
E21.3	7	0.0	
下垂体性巨人症 E22.0	18	0.1	
高プロラクチン血症 E22.1	1	0.0	
抗利尿ホルモン分泌異常症候群			
E22.2	12	0.1	
思春期早発症 E22.8	1298	7.5	
(詳細は表5 - 3参照)			
下垂体機能低下症 E23.0A	159	0.9	
ゴナドトロピン欠乏症 E23.0B	21	0.1	
副腎皮質刺激ホルモン欠乏症E23.0C	10	0.1	
甲状腺刺激ホルモン欠乏症E23.0D	21	0.1	
成長ホルモン分泌不全性低身長症			
E23.0E	8333	47.9	
(詳細は表5 - 4、表11 - 2、及び 表12 - 2参照)			
下垂体性尿崩症 E23.2	190	1.1	
フルリッ症候群 E23.6	2	0.0	
クッシング病 E24.0	6	0.0	
異所性副腎皮質刺激ホルモン症候群			

E24.3	1	0.0
クッシング症候群 E24.9A	24	0.1
周期性ACTH症候群 E24.9B	86	0.5
21水酸化酵素欠損症E25.0A	27	0.2
(新生児スクリーニングで発見：7人、 他で発見：4人、不明：16人)		
先天性副腎臓過形成E25.0B	11	0.1
3 水酸化ステロイド脱水素酵素欠損症		
E25.0C	1	0.0
17 水酸化酵素欠損症E25.0E	2	0.0
病型不明の先天性副腎過形成		
E25.0	493	2.8
(新生児スクリーニングで発見：197人、 他で発見：155人、不明：141人)		
副腎性器症候群 E25.9	74	0.4
特発性アルドステロン症 E26.0	1	0.0
二次性アルドステロン症 E26.1	1	0.0
ハーター症候群 E26.8	40	0.2
高アルドステロン症 E26.9	4	0.0
アソソ病 E27.1	32	0.2
急性副腎皮質不全 E27.4A	2	0.0
アルドステロン分泌不全 E27.4B	4	0.0
偽性低アルドステロン症 E27.4C	11	0.1
高エストロゲン症 E28.0	2	0.0
多嚢胞性卵巣症候群E28.2	6	0.0
原発性性腺機能低下症(女)E28.3	32	0.2
原発性性腺機能低下症(男)E29.1	80	0.5
(特発性)思春期遅発症E30.0	30	0.2
仮性思春期早発症 E30.1A	9	0.1
部分的思春期早発症E30.8	1	0.0
加齢ノイド症候群 E34.0	1	0.0
異所性プロラクチン産生腫瘍E34.2D	1	0.0
アソソ型小人症 E34.3A	8	0.0
アンドロゲン不応症 E34.5	10	0.1
レニン分泌異常 E34.8B	6	0.0
全身性赤システロイド E88.1	3	0.0
神経性食欲不振症 F50.0	3	0.0
腎血管性高血圧 I15.0	41	0.2
腎性尿崩症 N25.1	67	0.4
卵巣形成不全 Q50.3	5	0.0
睾丸欠損症 Q55.0	4	0.0
睾丸形成不全 Q55.1	13	0.1
半陰陽 Q56.0	18	0.1
男性仮性半陰陽 Q56.1	16	0.1
女性仮性半陰陽 Q56.2	3	0.0

仮性半陰陽 Q56.3	4	0.0
プラダ-ウィリアム症候群またはヌーナン症候群		
(以下、再掲) Q87.1	220	1.3
プラダ-ウィリアム症候群Q87.1A	186	1.1
ヌーナン症候群 Q87.1B	25	0.1
ローレンス-ムーニ-ビートル症候群Q87.8A	11	0.1
副腎形成不全 Q89.1	25	0.1
副甲状腺形成不全 Q89.2B	1	0.0
ターナー症候群 Q96	403	2.3
(詳細は表5 - 5参照)		
X Y女性 Q97.3	6	0.0
X X男性 Q98.3	6	0.0
クラインフェルター症候群 Q98.4	25	0.1
軟骨異栄養症 E77.4	1	0.0
(本来は先天性代謝異常に分類)		
先天性高脂質血症 E78.5	1	0.0
(本来は先天性代謝異常に分類)		
不明(コンピュータ入力ミス等)	13	0.1

#### 表5 - 2、甲状腺機能亢進症

(合計1684人)、(新規診断408人、  
継続1166人、転入12人、無記入98人)

#### 男女別の診断時年齢

	合計	男子	女子	不明
合計	1684人	233人	1423人	28人
0歳	10	6	4	0
1歳	5	3	2	0
2歳	0	0	0	0
3歳	2	1	1	0
4歳	4	1	3	0
5歳	9	1	8	0
6歳	9	1	8	0
7歳	15	3	12	0
8歳	25	2	22	1
9歳	49	6	43	0
10歳	64	9	54	1
11歳	79	11	68	0
12歳	134	20	113	1
13歳	159	23	130	6
14歳	199	27	171	1
15歳	258	43	210	5
16歳	250	29	217	4
17歳	239	32	202	5

18歳	48	7	41	0
19歳	21	1	20	0
不明	105	7	94	4

合併症

無：1083人、有：183人、不明：418人

経過

治癒：3人、寛解：274人、改善：729人、  
不変：177人、再燃：37人、悪化：10人、  
判定不能：33人、不明：421人

### 表5-3、思春期早発症

(合計1298人)、(新規診断311人、  
継続844人、転入22人、無記入121人)

男女別の診断時年齢

	合計	男子	女子	不明
合計	1298人	190人	1083人	25人
0歳	2	0	2	0
1歳	15	2	13	0
2歳	11	0	11	0
3歳	30	3	26	1
4歳	19	1	17	1
5歳	31	2	29	0
6歳	49	3	46	0
7歳	75	2	71	2
8歳	120	6	114	0
9歳	171	6	161	4
10歳	164	21	139	4
11歳	152	22	124	6
12歳	136	35	98	3
13歳	80	21	59	0
14歳	73	23	49	1
15歳	38	13	24	1
16歳	26	7	19	0
17歳	13	7	5	1
18~19歳	3	1	2	0
不明	90	15	74	1

合併症

無：820人、有：168人、不明：310人

経過

治癒：4人、寛解：61人、改善：582人、  
不変：224人、再燃：5人、悪化：22人、  
判定不能：15人、不明：385人

### 表5-4、成長ホルモン分泌不全性低身長症

(合計8333人)、(新規診断1208人、  
継続6967人、転入76人、無記入82人)

男女別の診断時年齢

	合計	男子	女子	不明
合計	8333人	5619人	2649人	65人
0歳	4	3	1	0
1歳	10	7	3	0
2歳	24	16	8	0
3歳	54	33	21	0
4歳	126	76	50	0
5歳	264	157	102	5
6歳	413	261	147	5
7歳	538	351	179	8
8歳	556	365	188	3
9歳	671	438	227	6
10歳	743	472	268	3
11歳	845	553	288	4
12歳	867	545	320	2
13歳	804	574	224	6
14歳	709	567	136	6
15歳	402	325	75	2
16歳	179	142	35	2
17歳	104	72	31	1
18歳	39	28	10	1
19歳以上	23	12	11	0
不明	958	622	325	11

合併症

無：5857人、有：798人、不明：1678人

成長ホルモン治療用意見書

初回申請：1208人(詳細は表11-2参照)

継続申請：5894人(詳細は表12-2参照)

### 表5-5、ターナー症候群

(合計403人)、(新規診断71人、  
継続308人、転入6人、無記入18人)  
(男子3人、女子391人、無記入9人)

診断時の年齢

0歳3人、1歳2人、2歳3人、3歳8人、  
4歳6人、5歳7人、6歳13人、7歳25人、  
8歳23人、9歳25人、10歳13人、11歳33人、

12歳28人、13歳36人、14歳54人、15歳36人、  
16歳27人、17歳19人、18歳 6人、19歳 3人、  
不明33人

合併症

無：224人、有：87人、不明：92人

成長ホルモン治療用意見書

初回申請：46人、継続申請：194人

6) 膠原病

「膠原病」の登録者5441人（53都府県市の資料）に関する統計を表6-1に、「若年性関節リウマチ」1119人の解析を表6-2に、「川崎病」4217人の解析を表6-3に示す。若年性関節リウマチは県単が少なく、逆に川崎病のほとんどが県単で登録されていた。

若年性関節リウマチは、女子に多く、発病年齢は、全年齢にわたっていたが、2～6歳に比較的多かった。登録者数は年齢とともに多くなり、寛解や改善を繰り返しながら経過が長いことがうかがえる。症状は、ことに新規登録児には関節症状や発熱が多いものの、皮膚症状や眼症状等がみられる症例もあった。

川崎病は、男子に比較的多かった。発病は4歳以下が多いものの、小中学生までは経過観察（登録）されている症例が多かった。典型的な症状以外に、レイノー症状や関節症状がみられる症例もあった。

表6-1、膠原病, Collagen Diseases

(合計5441人)、(新規診断751人、  
継続2687人、転入23人、無記入1980人)  
(男子2614人、女子2294人、無記入533人)  
(国の小慢事業1541人、県単独事業3900人)

岩手県36人、宮城県24人、秋田県20人、  
茨城県48人、群馬県4人、千葉県40人、  
東京都4099人、神奈川県60人、新潟県25人、  
富山県16人、福井県18人、山梨県21人、  
岐阜県34人、静岡県54人、愛知県18人、  
三重県19人、京都府26人、大阪府69人、  
奈良県21人、和歌山県14人、岡山県19人、  
広島県36人、山口県25人、徳島県21人、  
香川県15人、愛媛県37人、高知県12人、

佐賀県4人、熊本県18人、大分県12人、  
宮崎県32人、鹿児島県12人、沖縄県48人、  
札幌市49人、千葉市11人、名古屋市23人、  
神戸市4人、広島市6人、北九州市19人、  
宇都宮市196人、新潟市10人、富山市10人、  
金沢市12人、岐阜市13人、浜松市9人、  
堺市22人、和歌山市12人、岡山市17人、  
福山市15人、長崎市11人、熊本市18人、  
大分市10人、鹿児島市17人の53都府県市の集計  
結果

疾患名	ICD10	人数(人)	%
リウマチ熱	I00	57	1.0
リウマチ性心疾患	I09.9	2	0.0
スチーブンス・ジョンソン症候群	L51.1	15	0.3
慢性関節リウマチ	M06.9	3	0.1
若年性関節リウマチ (詳細は表6-2参照)	M08.2	1119	20.6
川崎病 (詳細は表6-3参照)	M30.3	4217	77.5
シェーグレン症候群	M35.0	17	0.3
混合性結合組織病 (特定疾患対象)	M35.1	5	0.1
播種性好酸球性膠原病	M35.8	3	0.1
不明(コンピュータ入力ミス等)		3	0.1

表6-2、若年性関節リウマチ

(合計1119人)、(新規診断199人、  
継続795人、転入5人、無記入120人)  
(男子401人、女子676人、無記入42人)  
(国の小慢事業1047人、県単独事業72人)

診断時の年齢

1歳10人、2歳21人、3歳29人、4歳33人、  
5歳38人、6歳41人、7歳49人、8歳49人、  
9歳75人、10歳67人、11歳75人、12歳70人、  
13歳91人、14歳82人、15歳69人、16歳67人、  
17歳70人、18歳56人、19歳29人、不明98人

発病時の年齢

0歳26人、1歳64人、2歳76人、3歳79人、  
4歳81人、5歳82人、6歳83人、7歳60人、  
8歳41人、9歳50人、10歳53人、11歳53人、  
12歳49人、13歳49人、14歳47人、15歳18人、  
16歳3人、17歳3人、不明202人

## 症状の有無

関節症状、有:711人、無:280人、不明:128人  
(新規のみ、有:168人、無:26人、不明:5人)  
皮膚症状、有:214人、無:690人、不明:215人  
(新規のみ、有:58人、無:127人、不明:14人)  
発熱、有:386人、無:519人、不明:214人  
(新規のみ、有:114人、無:69人、不明:16人)  
レイノ-症状、有:35人、無:843人、不明:241人  
(新規のみ、有:7人、無:170人、不明:22人)  
眼症状、有:85人、無:809人、不明:225人  
(新規のみ、有:13人、無:164人、不明:22人)  
口腔内症状有:34人、無:839人、不明:246人  
(新規のみ、有:5人、無:168人、不明:26人)

## 赤沈 1 時間値

10mm未満: 159人、10~19mm: 116人、  
20~39mm: 148人、40~59mm: 110人、  
60~79mm:93人、80mm以上:151人、不明:342人

## C R P

0mg/dl: 360人、1~2mg/dl: 158人、  
3~5mg/dl: 122人、6~8mg/dl: 83人、  
9mg/dl以上: 157人、不明: 239人

白血球数、増加: 330人、正常: 508人、  
減少: 25人、不明: 256人

## 血清 グロブリン値

1.0g/dl未満: 64人、1.0~1.9g/dl: 209人、  
2.0~3.9g/dl: 89人、4.0g/dl以上: 71人、  
不明: 686人

## 抗核抗体

陰性: 163人、20倍未満(正常): 58人、  
20~80倍未満:159人、80~320倍未満: 128人、  
320~1280倍未満:64人、1280倍以上:16人、  
不明:531人

## R A

- :494人、±:32人、+:151人、不明:442人

## 合併症

無: 644人、有: 178人、不明: 297人

## 経過

治癒: 5人、寛解: 313人、改善: 321人、  
不変: 179人、再燃: 37人、悪化: 22人、  
判定不能: 10人、不明: 232人

## 表 6 - 3、川崎病

(合計4217人)、(新規診断521人、  
継続1835人、転入18人、無記入1843人)

(男子2166人、女子1564人、無記入487人)  
(国の小慢事業429人、県単独事業3788人)

## 診断時の年齢

0歳170人、1歳304人、2歳335人、3歳337人、  
4歳378人、5歳352人、6歳371人、7歳296人、  
8歳211人、9歳216人、10歳175人、11歳149人、  
12歳122人、13歳177人、14歳151人、15歳127人、  
16歳114人、17歳85人、18歳55人、19歳32人、  
不明60人

## 発病時の年齢

0歳1222人、1歳1075人、2歳635人、3歳448人、  
4歳335人、5歳177人、6歳120人、7歳36人、  
8歳21人、9歳13人、10歳6人、11歳8人、  
12~15歳7人、不明114人

## 症状の有無

関節症状、有:185人、無:3130人、不明:902人  
皮膚症状、有:3655人、無:145人、不明:417人  
発熱、有:3675人、無:90人、不明:452人  
レイノ-症状、有:276人、無:3154人、不明:787人  
眼症状、有:3660人、無:144人、不明:413人  
口腔内症状有:3483人、無:230人、不明:504人

## 赤沈 1 時間値

10mm未満:104人、10~19mm: 92人、  
20~39mm: 79人、40~59mm:144人、  
60~79mm:198人、80mm以上:283人、  
不明:3317人

## 合併症

無: 2879人、有: 534人、不明: 804人

## 経過

治癒: 624人、寛解: 1330人、改善: 1436人、  
不変: 377人、再燃: 7人、悪化: 23人、  
判定不能: 39人、不明: 381人

## 7) 糖尿病

「糖尿病」の登録者2726人(56都府県市の資料)に関する統計を表7-1に、「I D D M」2071人の解析を表7-2に、「N I D D M」415人の解析を表7-3に示す。女子の登録者がやや多かった。県単での登録者は少なかった。

I D D Mの発病年齢は、0歳を含む小児期全般にみられたが、0~1歳で診断(登録)される症例は少なかった。発病前後にインスリン療法の不要な期間があるため、また乳幼児医療費

助成制度を利用している場合が多いためであろうが、正確な診断が望まれる。

I D D Mの登録者は年齢とともに増加していた。多尿多飲や体重減少などの糖尿病の症状や高血糖値は、多くの新規登録児にみられたが、必ずしも全例ではなかった。治療によって肥満度20%以上になる症例もあった。蛋白尿は少なかったが、ケトン尿は1/3以上の症例で見られた。糖尿病性の合併症の頻度は、1980年発病以降、発病年代とともに減少する傾向が見られた。

N I D D Mは、10歳以上での発病が多かった。I D D Mと比較して、HbA1c値は高くなかったが、肥満を伴う症例、また糖尿病性以外の合併症を伴う症例が比較的多かった。

表7-1、糖尿病, Diabetes Mellitus

(合計2726人)、(新規診断555人、  
継続1961人、転入26人、無記入184人)  
(男子1177人、女子1491人、無記入58人)  
(国の小慢事業2682人、県単独事業44人)

岩手県60人、宮城県82人、秋田県25人、  
茨城県127人、群馬県14人、千葉県95人、  
東京都315人、神奈川県122人、新潟県35人、  
富山県33人、石川県2人、福井県26人、  
山梨県27人、岐阜県48人、静岡県102人、  
愛知県42人、三重県60人、京都府37人、  
大阪府187人、奈良県55人、和歌山県29人、  
岡山県47人、広島県83人、山口県54人、  
徳島県61人、香川県55人、愛媛県66人、  
高知県16人、佐賀県4人、熊本県57人、  
大分県48人、宮崎県46人、鹿児島県18人、  
沖縄県57人、札幌市103人、千葉市46人、  
名古屋市63人、神戸市17人、広島市8人、  
北九州市36人、宇都宮市18人、新潟市30人、  
富山市14人、金沢市25人、岐阜市10人、  
浜松市21人、豊田市2人、堺市26人、  
和歌山市17人、岡山市19人、福山市19人、  
高知市11人、長崎市23人、熊本市28人、  
大分市22人、鹿児島市33人の56都府県市の集計  
結果

疾患名 ICD10 人数(人) %

I D D M	E10.9	2071	76.0
(詳細は表7-2参照)			
N I D D M	E11.9	415	15.2
(詳細は表7-3参照)			
糖尿病性ケトアシトシ	E14.1	1	0.0
糖尿病性腎症	E14.2	1	0.0
糖尿病	E14.9	230	8.4
糖原病	E74.0L	3	0.1
(本来は先天性代謝異常に分類)			
不明(コンピュータ入力ミス等)		5	0.2

表7-2、I D D M

(合計2071人)、(新規診断358人、  
継続1560人、転入21人、無記入132人)  
(男子885人、女子1141人、無記入45人)

診断時の年齢

0歳6人、1歳7人、2歳26人、3歳37人、  
4歳37人、5歳45人、6歳55人、7歳79人、  
8歳79人、9歳87人、10歳106人、11歳119人、  
12歳144人、13歳191人、14歳188人、15歳212人、  
16歳222人、17歳216人、18歳25人、19歳16人、  
不明174人

発病時の年齢

0歳58人(新規は10人)、1歳73人(同、5人)、  
2歳91人(同、17人)、3歳103人(同、18人)、  
4歳110人、5歳94人、6歳95人、7歳113人、  
8歳125人、9歳129人、10歳110人、11歳153人、  
12歳112人、13歳108人、14歳89人、15歳42人、  
16歳26人、17~18歳8人、不明432人

肥満度(%)

-20以下: 54人、±20未満: 1304人、  
+20~30未満: 95人、+30~50未満: 41人、  
+50以上: 27人、不明: 550人

症状の有無

多尿多飲有: 820人、無記入: 1169人、不明: 82人  
(新規は、有: 263人、無記入: 93人、不明: 2人)  
体重減少有: 629人、無記入: 1358人、不明: 84人  
(新規は、有: 205人、無記入: 150人、不明: 3人)  
全身倦怠有: 551人、無記入: 1437人、不明: 83人  
(新規は、有: 177人、無記入: 177人、不明: 4人)  
意識障害有: 145人、無記入: 1841人、不明: 85人  
(新規は、有: 35人、無記入: 320人、不明: 3人)  
昏睡有: 97人、無記入: 1887人、不明: 87人

(新規は、有:25人、無記入:329人、不明:4人)  
血糖値(随時および空腹時を含む、mg/dl)  
100未満:127人、100~199:356人、  
200以上:1040人、不明:548人

(新規は、100未満:6人、100~199:44人、  
200以上:266人、不明:42人)

HbA1c(%)

5.0未満:19人、5.0~:73人、6.0~:158人、  
7.0~:243人、8.0~:229人、9.0~:188人、  
10.0~:159人、11.0~:108人、12.0~:95人、  
13.0~:80人、14.0以上:126人、不明:593人

ケトン尿

-または±:960人、+:99人、  
++:104人、+++以上:335人、不明:573人  
(新規は、-または±:105人、+:31人、  
++:41人、+++以上:141人、不明:40人)

蛋白尿

-または±:1228人、+:73人、  
++以上:31人、不明:739人

糖尿病性の合併症

無:1642人、有:68人(3.3%)、不明:361人

その他の合併症

無:1508人、有:138人、不明:425人

発病年代別、糖尿病性の合併症

1980~84年、

無:39人、有:6人(11.8%)、不明:6人

1985~89年、

無:153人、有:7人(3.8%)、不明:26人

1990~94年、

無:471人、有:26人(4.7%)、不明:56人

1995~99年、

無:794人、有:22人(2.4%)、不明:84人

経過

治癒:5人、寛解:95人、改善:835人、  
不変:597人、再燃:7人、悪化:34人、  
判定不能:20人、不明:478人

### 表7-3、NIDDM

(合計415人)、(新規診断127人、  
継続241人、転入4人、無記入43人)  
(男子189人、女子215人、無記入11人)

発病時の年齢

0歳4人、1~5歳8人、6歳4人、7歳6人、

8歳13人、9歳20人、10歳38人、11歳42人、  
12歳43人、13歳58人、14歳30人、15歳30人、  
16歳7人、17歳3人、不明109人

肥満度(%)

-20以下:2人、±20未満:113人、  
+20~30未満:41人、+30~50未満:87人、  
+50以上:86人、不明:86人

症状の有無

多尿多飲有:104人、無記入:301人、不明:10人  
体重減少有:59人、無記入:344人、不明:12人  
全身倦怠有:62人、無記入:343人、不明:10人  
意識障害有:5人、無記入:397人、不明:13人  
昏睡有:4人、無記入:399人、不明:12人

HbA1c(%)

5.0未満:18人、5.0~:61人、6.0~:54人、  
7.0~:34人、8.0~:28人、9.0~:41人、  
10.0~:25人、11.0~:18人、12.0~:18人、  
13.0~:11人、14.0以上:6人、不明:101人

ケトン尿

-または±:282人、+:12人、++:6人、  
+++以上:12人、不明:103人

蛋白尿

-または±:271人、+:21人、  
++以上:7人、不明:116人

糖尿病性の合併症

無:335人、有:17人、不明:63人

その他の合併症

無:250人、有:83人、不明:82人

経過

寛解:18人、改善:168人、不変:97人、再燃:3人、  
悪化:22人、判定不能:3人、不明:104人

## 8) 先天性代謝異常

「先天性代謝異常」の登録者3561人(55都府  
県市の資料)に関する統計を表8-1に示す。  
県単での登録者はほとんどいなかった。先天性  
胆道閉鎖症、総胆管拡張症等の頻度が高く、本  
来の先天性代謝異常症は、種類は多かったが、  
各疾患の頻度は必ずしも高くなかった。

フェニルケトン尿症、楓糖尿症、ホモシスチ  
ン尿症、ガラクトース血症の比較的多くは、マ  
スクリーニングで発見されていた。その他、  
研究段階として実施されている家族性高コレス  
テロール血症やウィルソン病なども少数例がス

クリーニングされていた。

「先天性胆道閉鎖症」904人の解析を表8-2に示す。登録者は女子に多く、改善していても合併症をもちながら、少なくとも小中学生まで治療ないし経過観察（登録）されている症例が多かった。

軟骨異栄養症患児の42%が、成長ホルモン治療用意見書を提出していた。

**表8-1、先天性代謝異常、**  
Inborn Errors of Metabolism

(合計3561人)、(新規診断598人、  
継続2649人、転入30人、無記入284人)  
(男子1644人、女子1824人、無記入93人)  
(国の小慢事業3553人、県単独事業8人)

岩手県119人、宮城県117人、秋田県43人、茨城県112人、群馬県4人、千葉県109人、東京都405人、神奈川県85人、新潟県52人、富山県34人、福井県43人、山梨県45人、岐阜県103人、静岡県144人、愛知県36人、三重県72人、京都府73人、大阪府339人、奈良県89人、和歌山県59人、岡山県41人、広島県129人、山口県71人、徳島県58人、香川県53人、愛媛県62人、高知県16人、佐賀県5人、熊本県51人、大分県51人、宮崎県58人、鹿児島県29人、沖縄県73人、札幌市95人、千葉市43人、名古屋市101人、神戸市8人、広島市12人、北九州市52人、宇都宮市30人、新潟市24人、富山市8人、金沢市11人、岐阜市13人、浜松市27人、豊田市5人、堺市68人、和歌山市45人、岡山市38人、福山市47人、高知市15人、長崎市24人、熊本市52人、大分市27人、鹿児島市36人の55都府県市の集計結果

疾患名	ICD10	人数(人)	%
総胆管嚢腫	D13.5	14	0.4
トランスフェリン欠乏症	D50.8	1	0.0
アデノシンアミン酸欠損症	D81.3	1	0.0
ビタミンD依存性くる病	E55.0A	8	0.2
フェニルケトン尿症	E70.0	126	3.5
(マスキリングで発見:91人、不明:35人)			
高フェニルアラニン血症	E70.0B	19	0.5

(マスキリングで発見:15人、不明:4人)			
悪性高フェニルアラニン血症	E70.1A	3	0.1
(マスキリングで発見:2人、不明:1人)			
和シ代謝異常	E70.2等	9	0.3
(以下、再掲)			
アルカトシ尿症	E70.2A	1	0.0
高和シ血症	E70.2B	7	0.2
白皮症	E70.3B	16	0.4
サツリン酸尿症	E70.8C	2	0.1
高イドジハポト尿症	E70.8D	1	0.0
楓糖尿症	E71.0	23	0.6
(マスキリングで発見:14人、不明:9人)			
側鎖アミノ酸代謝異常	E71.1等	38	1.1
(以下、再掲)			
イ吉草酸血症	E71.1A	4	0.1
高イロイシ血症	E71.1B	1	0.0
高イシ血症	E71.1D	3	0.1
プロピオン酸血症	E71.1F	10	0.3
メチルプロピオン酸血症	E71.1H	19	0.5
副腎白質ジストロフィー	E71.3A	24	0.7
加ニチパルミトランスフェラーゼ欠損症	E71.3C	3	0.1
アミノ酸転送異常	E72.0等	101	2.8
(以下、再掲)			
家族性イグリシ尿症	E72.0A	1	0.0
シスチン症	E72.0C	5	0.2
眼脳腎症候群	E72.0D	19	0.5
シスチン尿症	E72.0E	56	1.6
ファンコ症候群	E72.0F	18	0.5
ハルナツ病	E72.0G	1	0.0
ホシシチン尿症	E72.1C	25	0.7
(マスキリングで発見:16人、不明:9人)			
メチルアデノシトランスフェラーゼ欠損症	E72.1D	10	0.3
尿素サイクル代謝異常	E72.2等	82	2.3
(以下、再掲)			
高アルギニン血症	E72.2A	4	0.1
アルギニノコハク酸尿症	E72.2B	4	0.1
高アンモニア血症	E72.2C	36	1.0
シトルリン血症	E72.2D	8	0.2
ホニチトランスカルバミラーゼ欠損症	E72.2E	24	0.7
N-アセチルグルタミン酸合成酵素欠損症	E72.2F	1	0.0
加ハミルリン酸合成酵素欠損症			

	E72.2H	2	0.1	その他のル <sup>o</sup> ト <sup>o</sup> 蓄積症E75.5	2	0.1
グルタル酸血症	E72.3A	4	0.1	Hurler症候群 E76.0A	4	0.1
3-メチルグルタコン酸尿症	E72.3C	3	0.1	Hurler-Scheie症候群E76.0B	1	0.0
先天性リ <sup>o</sup> ン尿症	E72.3E	1	0.0	Hunter症候群 E76.1A	26	0.7
高オ <sup>o</sup> ニチ血症	E72.4	8	0.2	ムコ多糖症 型 E76.2A	1	0.0
高グ <sup>o</sup> リ <sup>o</sup> ン血症	E72.5A	13	0.4	ムコ多糖症 型 E76.2B	2	0.1
腎性アミノ酸尿症	E72.9	3	0.1	ムコ多糖症 型 E76.2D	1	0.0
乳糖分解酵素欠損症	E73.0	8	0.2	ムコ多糖症 E76.3A	35	1.0
乳糖不耐症	E73.9	45	1.3	-ガラクトシ <sup>o</sup> ダ <sup>o</sup> -セ <sup>o</sup> -ノイミ <sup>o</sup> ダ <sup>o</sup> -セ <sup>o</sup> 欠損症		
糖原病(以下、再掲)	E74.0L等	138	3.9	E76.3C	3	0.1
糖原病 型	E74.0A	31	0.9	ムコル <sup>o</sup> ト <sup>o</sup> -シ <sup>o</sup> ス 型 E77.0A	4	0.1
糖原病 型	E74.0B	2	0.1	ムコル <sup>o</sup> ト <sup>o</sup> -シ <sup>o</sup> ス 型 E77.1A	1	0.0
糖原病 型	E74.0C	11	0.3	ムコル <sup>o</sup> ト <sup>o</sup> -シ <sup>o</sup> ス E77.9	2	0.1
糖原病 型	E74.0D	3	0.1	家族性高コレステロール血症E78.0A	191	5.4
糖原病 型	E74.0F	4	0.1	(マスキリングで発見: 8人、不明:183人)		
糖原病 型	E74.0G	2	0.1	高ホ <sup>o</sup> 蛋白血症 型 E78.0B	12	0.3
糖原病 型	E74.0H	1	0.0	(マスキリングで発見: 2人、不明: 10人)		
糖原病、型	E74.0I	12	0.3	高ホ <sup>o</sup> 蛋白血症 型 E78.1	9	0.3
肝型糖原病	E74.0J	2	0.1	高ホ <sup>o</sup> 蛋白血症 型 E78.3B	2	0.1
筋糖原病	E74.0K	3	0.1	先天性高脂質血症 E78.5	19	0.5
グルコース-1,6-ジ <sup>o</sup> ホスファターゼ欠損症				アルファホ <sup>o</sup> 蛋白欠乏症 E78.6A	4	0.1
	E74.1D	7	0.2	家族性低 <sup>o</sup> -ホ <sup>o</sup> 蛋白血症E78.6B	6	0.2
ガラクトース血症	E74.2A	86	2.4	家族性ホ <sup>o</sup> 蛋白欠損症E78.6C	1	0.0
(マスキリングで発見:47人、不明:39人)				家族性高ホ <sup>o</sup> 蛋白血症E78.8	27	0.8
グルコースガラクトース吸収不全症	E74.3	7	0.2	Lesch-Nyhan症候群 E79.1B	4	0.1
ピ <sup>o</sup> ル <sup>o</sup> ン酸加ホ <sup>o</sup> キラーゼ欠損症	E74.4A	8	0.2	adenine phosphoribosyltransferase欠損症		
ピ <sup>o</sup> ル <sup>o</sup> ン酸ホ <sup>o</sup> キラーゼ欠損症	E74.4B	2	0.1	E79.8A	8	0.2
アミラーゼ欠損症	E74.8A	3	0.1	ピ <sup>o</sup> リ <sup>o</sup> ジ <sup>o</sup> ンクル <sup>o</sup> チ <sup>o</sup> ダ <sup>o</sup> -セ <sup>o</sup> 欠損症E79.8E	1	0.0
腎性糖尿	E74.8B	14	0.4	骨髄性プロ <sup>o</sup> ト <sup>o</sup> ホ <sup>o</sup> ル <sup>o</sup> フィ <sup>o</sup> リン症E80.2B	1	0.0
シュウ酸尿症	E74.8C	3	0.1	急性間欠性ホ <sup>o</sup> ル <sup>o</sup> フィ <sup>o</sup> リン症E80.2D	1	0.0
Tay-Sachs病	E75.0B	5	0.1	ジ <sup>o</sup> ル <sup>o</sup> ハ <sup>o</sup> -ル <sup>o</sup> 症候群 E80.4	7	0.0
GM2-ガ <sup>o</sup> ソ <sup>o</sup> グ <sup>o</sup> リ <sup>o</sup> オ <sup>o</sup> ト <sup>o</sup> -シ <sup>o</sup> ス	E75.0C	1	0.0	Crigler-Najjar症候群E80.5	1	0.0
ガ <sup>o</sup> ソ <sup>o</sup> グ <sup>o</sup> リ <sup>o</sup> オ <sup>o</sup> ト <sup>o</sup> -シ <sup>o</sup> ス	E75.1C	1	0.0	ヒ <sup>o</sup> ル <sup>o</sup> ル <sup>o</sup> ビ <sup>o</sup> ン代謝異常 E80.6等	8	0.2
スフィンゴ <sup>o</sup> リ <sup>o</sup> ト <sup>o</sup> -シ <sup>o</sup> ス	E75.2等	51	1.4	(以下、再掲)		
(以下、再掲)				デ <sup>o</sup> レ <sup>o</sup> ビ <sup>o</sup> ン <sup>o</sup> ジ <sup>o</sup> ンソ <sup>o</sup> ン症候群E80.6A	3	0.1
Gaucher病	E75.2D	28	0.8	ロ <sup>o</sup> -ター症候群 E80.6B	4	0.1
Fabry病	E75.2E	5	0.1	銅代謝異常 E83.0等	124	3.5
異染性ロ <sup>o</sup> イ <sup>o</sup> ジ <sup>o</sup> スト <sup>o</sup> ロ <sup>o</sup> フィー	E75.2F	6	0.2	(以下、再掲)		
Krabbe病	E75.2G	2	0.1	ウ <sup>o</sup> イル <sup>o</sup> ソ <sup>o</sup> ン病 E83.0A	106	3.0
Niemann-Pick病	E75.2J	3	0.1	(マスキリングで発見: 3人、不明:103人)		
Pelizaeus-Merzbacher病	E75.2K	5	0.2	kinky hair病 E83.0B	12	0.3
ロ <sup>o</sup> イ <sup>o</sup> ジ <sup>o</sup> スト <sup>o</sup> ロ <sup>o</sup> フィー	E75.2L	1	0.0	リン代謝異常 E83.3等	130	3.7
neuronal ceroid lipofuscinosis				(以下、再掲)		
	E75.4	4	0.1	家族性低 <sup>o</sup> ホ <sup>o</sup> 酸血症 E83.3A	64	1.8
コレステロールエステル蓄積症	E75.5A	3	0.1	ヒ <sup>o</sup> タ <sup>o</sup> ミンD抵抗性くる病E83.3D	60	1.7

cystic fibrosis E84.9	13	0.4
先天性高尿酸血症 E87.2	13	0.4
1-トリプトファン抑制物質欠損症E88.0A	1	0.0
無アルブミン血症 E88.0B	1	0.0
無ハプトグロビン症 E88.0D	2	0.1
アポ蛋白C- 欠損症 E88.8D	1	0.0
グルタチオンペルオキシダーゼ欠損症E88.8J	1	0.0
先天性アセチルコリンエステラーゼ欠損症E88.8N	1	0.0
複合加ボキシンナーゼ欠損症E88.8P	7	0.2
6-叔水素グルコン酸脱水素酵素欠乏症 E88.8S	1	0.0
分類不明の代謝異常E88.9	7	0.2
レフム病 G60.1	1	0.0
腎尿細管性アシドーシス N25.8	50	1.4
先天性胆道閉鎖症 Q44.2	904	25.4
(詳細は表8-2参照)		
総胆管拡張症 Q44.4	352	9.9
軟骨異栄養症 Q77.4	366	10.3
(成長ホルモン治療用意見書 初回申請: 46人、継続申請: 108人)		
骨形成不全症 Q78.0	156	4.4
大理石病 Q78.2	6	0.2
エーラス・ダンロウ症候群 Q79.6	21	0.6
遺伝性脈管浮腫 Q82.0	4	0.1
色素性乾皮症 Q82.1	44	1.2
加タゲル症候群 Q89.3	5	0.1
線毛機能不全症候群Q89.8	2	0.1
遺伝性血管神経性浮腫T78.3	2	0.1
21水酸化酵素欠損症E25.0A	1	0.0
(本来は内分泌疾患に分類)		
無顆粒球症 D70A	1	0.0
(本来は血友病等血液疾患に分類)		
免疫グロブリン欠損症 D80.8	2	0.1
(本来は血友病等血液疾患に分類)		
無歯症 K00	7	0.2
(本来は小慢対象外)		
不明(コンピュータ入力ミス等)	27	0.8

表8-2、先天性胆道閉鎖症

(合計904人)、(新規診断110人、  
継続703人、転入10人、無記入81人)  
(男子323人、女子564人、無記入17人)

診断時の年齢

0歳62人、1歳55人、2歳67人、3歳72人、  
4歳63人、5歳52人、6歳52人、7歳38人、  
8歳48人、9歳44人、10歳39人、11歳40人、  
12歳35人、13歳40人、14歳36人、15歳38人、  
16歳20人、17歳18人、18~19歳2人、不明83人

症状の有無  
肝腫、有:519人、無記入:336人、不明:49人  
成長障害有:127人、無記入:722人、不明:55人  
骨変形、有:16人、無記入:833人、不明:55人  
知的障害有:17人、無記入:832人、不明:55人

就学状況  
通常学級:353人、障害児学級:2人、  
養護学校:7人、訪問教育:2人、不明:540人

合併症  
無:344人、有:317人、不明:243人

経過  
治癒:7人、寛解:170人、改善:348人、  
不変:133人、再燃:6人、悪化:30人、  
判定不能:5人、不明:205人

## 9) 血友病等血液疾患

「血友病等血液疾患」の登録者5028人(54都府県市の資料)に関する統計を表9-1に示す。県単での登録者はほとんどいなかった。「血友病A」642人の解析を表9-2に、「血管性紫斑病」1858人の解析を表9-3に示す。

血友病Aの登録者は小児期全般にわたっていたが、学童期以降に比較的多かった。新規登録者に対して継続登録者は8倍以上と、他の疾患と比べて多かった。症状は関節痛が多く、第因子が1%未満の重症例が38人と比較的少なかったためか、血尿の頻度は低かった。

血管性紫斑病の登録者は、4~12歳に多く、対象児を平成10年以降、「発病後2か月を経過したものに限り」としたためか、合併症有りの割合が比較的多かった。

遺伝性球状赤血球症、遺伝性非球状性溶血性貧血、自己免疫性溶血性貧血等に関して、Hb 10g/dl未満の貧血患児は半数以下であった。

表9-1、血友病等血液疾患、

Blood Diseases Including Haemophiliae

(合計5028人)、(新規診断1143人、

継続3503人、転入32人、無記入350人)  
 (男子2923人、女子1986人、無記入119人)  
 (国の小慢事業5026人、県単独事業2人)

岩手県117人、宮城県100人、秋田県55人、  
 茨城県135人、群馬県13人、千葉県115人、  
 東京都521人、神奈川県192人、富山県44人、  
 石川県9人、福井県42人、山梨県59人、  
 岐阜県58人、静岡県237人、三重県68人、  
 京都府126人、大阪府500人、奈良県174人、  
 和歌山県59人、岡山県86人、広島県195人、  
 山口県106人、徳島県55人、香川県97人、  
 愛媛県163人、高知県38人、佐賀県20人、  
 熊本県71人、大分県62人、宮崎県142人、  
 鹿児島県68人、沖縄県94人、札幌市185人、  
 千葉市49人、名古屋市154人、神戸市27人、  
 広島市34人、北九州市72人、宇都宮市26人、  
 新潟市26人、富山市10人、金沢市13人、  
 岐阜市16人、浜松市39人、豊田市5人、  
 堺市89人、和歌山市41人、岡山市47人、  
 福山市51人、高知市44人、長崎市42人、  
 熊本市90人、大分市46人、鹿児島市101人の54  
 都府県市の集計結果

疾患名	ICD10	人数(人)	%
AIDS	B24	2	0.0
伝染性単核症	B27.9	170	3.4
レトウイルス病	C96.0	70	1.4
Kasabach-Merritt症候群	D18.0	38	0.8
真性多血症	D45	1	0.0
骨髄増殖性疾患	D47.1	2	0.0
良性単クローン性免疫グロブリン異常症	D47.2B	2	0.0
血小板血病	D47.3	12	0.2
トランスフェリン欠乏症	D50.8	1	0.0
悪性貧血	D51.0	5	0.1
巨赤芽球性貧血	D53.1	11	0.2
グルコース-6-リン酸脱水素酵素欠乏性貧血	D55.0	9	0.2
グルコースリン酸イメラーゼ欠損症	D55.2B	1	0.0
ピルリン酸カタラーゼ欠乏性貧血	D55.2G	5	0.1
2,3-ジホスホグリセリン酸ムタラーゼ欠乏性貧血	D55.2H	1	0.0
サラセミア	D56.9等	21	0.4
(以下、再掲)			

サラセミア	D56.1	4	0.1
遺伝性高ヘモグロビン症	D56.4	1	0.0
鎌状赤血球貧血	D57.8	1	0.0
遺伝性球状赤血球症	D58.0	378	7.5
(Hb、7g/dl未満:30人、7~9.9g/dl:84人、 10g/dl以上:212人、不明:52人)			
遺伝性楕円赤血球症	D58.1	10	0.2
異常ヘモグロビン症	D58.2	8	0.2
遺伝性有口赤血球症	D58.8A	1	0.0
遺伝性非球状性溶血性貧血	D58.9	60	1.2
(Hb、7g/dl未満:11人、7~9.9g/dl:17人、 10g/dl以上:24人、不明:8人)			
自己免疫性溶血性貧血	D59.1	50	1.0
(Hb、7g/dl未満:14人、7~9.9g/dl:4人、 10g/dl以上:20人、不明:12人)			
溶血性尿毒症症候群	D59.3	181	3.6
(Hb、7g/dl未満:22人、7~9.9g/dl:37人、 10g/dl以上:85人、不明:37人)			
(BUN、20mg/dl未満:60人、20~49mg/dl:34人、 50mg/dl以上:37人、不明:50人)			
微小血管障害性溶血性貧血	D59.4	1	0.0
発作性夜間ヘモグロビン症	D59.5	2	0.0
発作性寒冷ヘモグロビン症	D59.6	2	0.0
脾機能亢進性溶血性貧血	D59.8	5	0.1
赤芽球ろう	D60.9	69	1.4
先天性低形成性貧血	D61.0	7	0.1
原発性鉄芽球性貧血	D64.0	5	0.1
鉄芽球性貧血	D64.3	2	0.0
先天性赤血球産生異常性貧血	D64.4	9	0.2
血管内凝固症候群	D65	1	0.0
血友病A	D66	642	12.8
(詳細は表9-2参照)			
血友病B	D67	144	2.9
(第因子、1%未満:5人、1~5%未満:70人、 5%以上:27人、不明:42人)			
フォン・ウィルブラント病	D68.0	142	2.8
第因子欠乏症	D68.1	2	0.0
その他の遺伝性凝固因子欠乏症	D68.2等	48	1.0
(以下、再掲)			
第因子欠乏症	D68.2A	10	0.2
第因子欠乏症	D68.2B	1	0.0
第因子欠乏症	D68.2C	3	0.1

第 因子欠乏症	D68.2D	5	0.1
第 因子欠乏症	D68.2E	1	0.0
第 因子欠乏症	D68.2G	16	0.3
本態性アトピーア	D68.2H	2	0.0
アトピーン 欠乏症	D68.2I	2	0.0
凝固因子異常症	D68.9	9	0.2
血管性紫斑病	D69.0A	1858	37.0
(詳細は表9 - 3参照)			
血小板機能異常症	D69.1	54	1.1
血小板減少性紫斑病	D69.3	87	1.7
血小板減少症	D69.4	4	0.1
先天性無巨核球性血小板減少症	D69.4A	4	0.1
免疫学的血小板減少症	D69.4B	156	3.1
脾機能亢進性血小板減少症	D69.5	27	0.5
周期性血小板減少症	D69.6	10	0.2
無顆粒球症	D70A	223	4.4
周期性好中球減少症	D70B	26	0.5
自己免疫性好中球減少症	D70C	1	0.0
白血球機能異常症	D71	12	0.2
慢性肉芽腫症	D71B	19	0.4
白血球の遺伝性異常	D72.0	7	0.1
好酸球増加症	D72.1	22	0.4
脾機能亢進症	D73.1	5	0.1
ヘジグピンM症	D74.0	2	0.0
骨髓線維症	D75.8	3	0.1
ヒジサイトーシX	D76.0	145	2.9
先天性無グロリン血症	D80.0	7	0.1
低グロリン血症	D80.1	39	0.8
IgA(単独)欠損症	D80.2	20	0.4
IgG単独欠損症	D80.3	2	0.0
免疫グロリン欠損症	D80.8	23	0.5
スライ型無グロリン血症	D81.2	1	0.0
重症複合免疫不全症	D81.9	11	0.2
ウィスコット・アトリン症候群	D82.0	6	0.1
DiGeorge症候群	D82.1	7	0.1
高IgE症候群	D82.4	6	0.1
短肢性こびと症を伴う免疫不全症	D82.8	1	0.0
細胞性免疫不全(症)	D83.1	3	0.1
分類不能型免疫不全症	D83.9	7	0.1
原発性補体異常症	D84.1	4	0.1
原発性免疫不全症	D84.8A	9	0.2
本態性高グロリン血症	D89.0B	1	0.0

異グロリン血症	D89.2A	1	0.0
ヘジグピン	E83.1	17	0.3
C蛋白欠乏症	E88.8I	3	0.1
ataxia telangiectasia	G11.3	5	0.1
遺伝性出血性末梢血管拡張症	I78.0	3	0.1
Banti症候群	K76.6	17	0.3
血栓性血小板減少性紫斑病	M31.1	13	0.3
新生児溶血性貧血	P55.0	2	0.0
Bloom症候群	Q82.8	2	0.0
急性リンパ性白血病	C91.0	3	0.1
(本来は悪性新生物に分類)			
総胆管嚢腫	D13.5	1	0.0
(本来は先天性代謝異常に分類)			
楓糖尿症	E71.0	1	0.0
(本来は先天性代謝異常に分類)			
鉄欠乏性貧血	D50	2	0.0
(本来は小慢対象外)			
不明(コンピュータ入力等)		16	0.3

## 表9 - 2、血友病A

(合計642人)、(新規診断60人、  
継続513人、転入6人、無記入63人)  
(男子623人、女子8人、無記入11人)

### 診断時の年齢

0歳20人、1歳25人、2歳24人、3歳21人、  
4歳30人、5歳30人、6歳29人、7歳34人、  
8歳21人、9歳27人、10歳34人、11歳35人、  
12歳38人、13歳35人、14歳23人、15歳24人、  
16歳38人、17歳35人、18歳38人、19歳32人、  
不明49人

### 症状の有無

鼻出血、有:121人、無記入:499人、不明:22人  
関節痛、有:298人、無記入:324人、不明:20人  
血尿、有:37人、無記入:583人、不明:22人  
出血斑、有:240人、無記入:381人、不明:21人

### 第 因子

1%未満:38人、1~5%未満:293人、  
5%以上:116人、不明:195人

### 合併症

無:325人、有:150人、不明:167人

### 経過

治癒:1人、寛解:20人、改善:66人、

不変：413人、再燃：2人、悪化：2人、  
判定不能：6人、不明：132人

Neuromuscular Diseases

表9 - 3、血管性紫斑病

(合計1858人)、(新規診断459人、  
継続1118人、転入10人、無記入271人)  
(男子905人、女子910人、無記入43人)

(合計782人)、(新規診断263人、  
継続403人、転入8人、無記入108人)  
(男子454人、女子298人、無記入30人)  
(国の小慢事業620人、県単独事業162人)

診断時の年齢

0歳3人、1歳4人、2歳11人、3歳56人、  
4歳92人、5歳157人、6歳186人、7歳185人、  
8歳178人、9歳158人、10歳126人、11歳103人、  
12歳95人、13歳65人、14歳60人、15歳39人、  
16歳26人、17歳16人、18歳17人、19歳8人、  
不明273人

症状の有無

鼻出血、有：29人、無記入：1716人、不明：113人  
関節痛、有：380人、無記入：1368人、不明：110人  
血尿、有：553人、無記入：1194人、不明：111人  
出血斑、有：731人、無記入：1017人、不明：110人

合併症

無：761人、有：537人、不明：560人

経過

治癒：14人、寛解：344人、改善：582人、  
不変：235人、再燃：97人、悪化：23人、  
判定不能：6人、不明：557人

10) 神経・筋疾患

「神経・筋疾患」の登録者782人(51都府県市の資料)に関する統計を表10 - 1に、「點頭てんかん」467人の解析を表10 - 2に示す。平成10年より追加された無痛無汗症での申請者は7人と少なかった。今後、申請者の増加が望まれる。

點頭てんかんの登録者は乳幼児に多かった。その多くは、けいれん、精神遅滞、運動障害があり、半数以上が合併症を伴っていた。しかし、発達・知能指数が70以上あり、「精神遅滞無し」も1割以上を占めていた。點頭てんかん患児家族に対して希望をもたせることも大切であろう。

表10 - 1、神経・筋疾患、

岩手県4人、宮城県15人、秋田県1人、  
茨城県28人、群馬県3人、千葉県20人、  
東京都165人、神奈川県18人、新潟県45人、  
富山県2人、石川県3人、福井県4人、  
山梨県3人、岐阜県5人、静岡県16人、  
愛知県8人、京都府25人、大阪府44人、  
奈良県42人、和歌山県4人、岡山県16人、  
広島県54人、山口県8人、徳島県9人、  
香川県3人、愛媛県5人、高知県1人、  
佐賀県1人、熊本県1人、大分県3人、  
宮崎県17人、鹿児島県2人、沖縄県16人、  
札幌市15人、千葉市4人、名古屋市5人、  
神戸市8人、広島市11人、宇都宮市16人、  
新潟市26人、富山市1人、浜松市2人、  
堺市42人、和歌山市1人、岡山市5人、  
福山市35人、高知市1人、長崎市3人、  
熊本市7人、大分市5人、鹿児島市4人の51都府県市の集計結果

疾患名	ICD10	人数(人)	%
亜急性硬化性全脳炎 (特定疾患対象)	A81.1	26	3.3
レット症候群	F84.2	21	2.7
點頭てんかん	G40.4	467	59.7
無痛無汗症	G60.8	7	0.9
先天性筋疾患 (以下、再掲)	G71.2等	116	14.8
筋細管性ミオチー	G71.2A	2	0.3
先天性筋線維型不均等症	G71.2B	5	0.6
ネリンミオチー	G71.2C	5	0.6
セントルコア病	G71.2E	2	0.3
福山型先天性筋ジストロフィー	G71.2F	9	1.2
先天性遺伝性筋ジストロフィー	G71.2G	92	11.8
ミトコンドリア脳筋症	G71.3	56	7.2
分類不明の筋疾患	G71.9	4	0.5
結節性硬化症	Q85.1	81	10.4
慢性肺性心	I27.9	1	0.1

(本来は慢性心疾患に分類)

**表 10 - 2、点頭てんかん**

(合計467人)、(新規診断169人、  
継続256人、転入 7人、無記入35人)  
(男子278人、女子182人、無記入7人)

**診断時の年齢**

0歳110人、1歳72人、2歳42人、3歳39人、  
4歳27人、5歳18人、6歳15人、7歳22人、  
8歳14人、9歳11人、10歳以上19人、不明78人

**症状の有無**

小頭症、有：54人、無：233人、不明：180人  
けいれん、有：323人、無：60人、不明：84人  
自閉傾向、有：35人、無：291人、不明：141人  
意識障害発作有：129人、無：217人、不明：121人  
行動異常、有：44人、無：271人、不明：152人  
精神遅滞、有：318人、無：49人、不明：100人  
運動障害、有：239人、無：106人、不明：122人  
皮膚所見、有：22人、無：320人、不明：125人  
呼吸異常、有：36人、無：297人、不明：134人

**発達・知能指数**

20未満：26人、20～49：41人、50～69：30人、  
70以上：28人、不明：342人

**CTまたはMRI**

実施：328人、未実施：21人、不明：118人

**合併症**

無：141人、有：161人、不明：165人

**経過**

治癒：1人、寛解：30人、改善：101人、  
不変：166人、再燃：9人、悪化：31人、  
判定不能：6人、不明：123人

**11) 成長ホルモン治療用意見書(初回申請)**

「成長ホルモン治療用意見書(初回)」の登録者1331人(46都府県市の資料)に関する統計を表11-1に、その中の「成長ホルモン分泌不全性低身長症」1208人の解析を表11-2に示す。成長ホルモン治療用意見書は記入項目が多く、またコンピュータソフトも自動計算を行う箇所が多い等、複雑に作成されているためか、集計可能な都府県市の資料が比較的限られていた。

成長ホルモン分泌不全性低身長症に関して、意見書に記載された成長率と、自動計算された補正成長率を比較すると、後者は大きい方にはらつきが大きかった。身長SDスコアは、自動計算による場合に比べて、医療意見書に記載された値は、小慢対象基準となる-2.5以下直前が多かった。

負荷試験による成長ホルモン頂値は、補正後の方が低かった。補正前後で値が変わる症例は多く、正確な補正が望まれる。

**表 11 - 1、成長ホルモン治療用意見書(初回申請)**

(合計1331人)、  
(男子819人、女子501人、無記入11人)

岩手県25人、宮城県43人、茨城県43人、  
群馬県14人、千葉県44人、東京都111人、  
神奈川県19人、新潟県26人、富山県 9人、  
岐阜県23人、静岡県75人、愛知県99人、  
三重県34人、京都府30人、大阪府158人、  
奈良県27人、和歌山県 6人、岡山県37人、  
山口県60人、香川県25人、愛媛県28人、  
高知県 9人、佐賀県12人、熊本県 4人、  
大分県23人、宮崎県 6人、鹿児島県 4人、  
沖縄県52人、千葉市20人、名古屋市55人、  
広島市26人、北九州市21人、宇都宮市 7人、  
新潟市 4人、富山市 8人、岐阜市10人、  
浜松市28人、豊田市 6人、堺市 25人、  
岡山市25人、福山市 2人、高知市 7人、  
長崎市15人、熊本市12人、大分市 9人、  
鹿児島市 5人の46都府県市の集計結果

疾患名	ICD10	人数(人)	%
成長ホルモン分泌不全性低身長症	E23.0E	1208	90.8
(詳細は表5-4、表11-2参照)			
ターナー症候群	Q96	46	3.5
軟骨異栄養症	Q77.4	46	3.5
慢性腎不全	N18.9	11	0.8
その他の慢性腎疾患		11	0.8
その他		9	0.7

**表 11 - 2、成長ホルモン分泌不全性低身長症(初回申請)**

約半年前の成長率 (cm / 年)

1.0未満: 19人、1.0~1.9: 40人、  
2.0~2.9: 93人、3.0~3.9: 230人、  
4.0~4.9: 305人、5.0~5.9: 200人、  
6.0~6.9: 79人、7.0~7.9: 19人、  
8.0以上: 13人、不明: 210人

約半年前の補正成長率 (cm / 年)

1.0未満: 21人、1.0~1.9: 30人、  
2.0~2.9: 67人、3.0~3.9: 123人、  
4.0~4.9: 184人、5.0~5.9: 124人、  
6.0~6.9: 58人、7.0~7.9: 23人、  
8.0以上: 24人、不明: 554人

約1年半前の成長率 (cm / 年)

1.0未満: 14人、1.0~1.9: 22人、  
2.0~2.9: 47人、3.0~3.9: 186人、  
4.0~4.9: 291人、5.0~5.9: 236人、  
6.0~6.9: 87人、7.0~7.9: 42人、  
8.0以上: 27人、不明: 256人

約1年半前の補正成長率 (cm / 年)

1.0未満: 11人、1.0~1.9: 14人、  
2.0~2.9: 21人、3.0~3.9: 88人、  
4.0~4.9: 157人、5.0~5.9: 125人、  
6.0~6.9: 61人、7.0~7.9: 30人、  
8.0以上: 36人、不明: 665人

身長SDスコア

-5.0: 20人、-5.0< ~ -4.0: 49人、  
-4.0< ~ -3.5: 70人、-3.5< ~ -3.0: 200人、  
-3.0< ~ -2.5: 604人、-2.5< ~ -2.0: 41人、  
-2.0< ~ -1.5: 9人、-1.5< : 19人、  
不明: 196人

自動計算による身長SDスコア

-5.0: 27人、-5.0< ~ -4.0: 62人、  
-4.0< ~ -3.5: 94人、-3.5< ~ -3.0: 250人、  
-3.0< ~ -2.5: 546人、-2.5< ~ -2.0: 51人、  
-2.0< ~ -1.5: 29人、-1.5< : 43人、  
不明: 106人

骨年齢 / 暦年齢 (%)

60: 182人、60< ~ 80: 429人、  
80< : 318人、不明: 279人

負荷試験による成長ホルモン頂値

アルギニン負荷 (補正前)

5ng/ml : 205人、5< ~ 10ng/ml : 348人、  
10ng/ml < : 173人

アルギニン負荷 (補正後)

5ng/ml : 272人、5< ~ 10ng/ml : 268人、

10ng/ml < : 85人、補正值不明: 101人

グルカゴン負荷 (補正前)

5ng/ml : 53人、5< ~ 10ng/ml : 97人、  
10ng/ml < : 39人

グルカゴン負荷 (補正後)

5ng/ml : 81人、5< ~ 10ng/ml : 70人、  
10ng/ml < : 19人、補正值不明: 19人

L-DOPA負荷 (補正前)

5ng/ml : 229人、5< ~ 10ng/ml : 214人、  
10ng/ml < : 115人

L-DOPA負荷 (補正後)

5ng/ml : 261人、5< ~ 10ng/ml : 169人、  
10ng/ml < : 51人、補正值不明: 77人

クロニジン負荷 (補正前)

5ng/ml : 119人、5< ~ 10ng/ml : 169人、  
10ng/ml < : 61人

クロニジン負荷 (補正後)

5ng/ml : 157人、5< ~ 10ng/ml : 118人、  
10ng/ml < : 34人、補正值不明: 40人

インスリン負荷 (補正前)

5ng/ml : 134人、5< ~ 10ng/ml : 228人、  
10ng/ml < : 90人

インスリン負荷 (補正後)

5ng/ml : 186人、5< ~ 10ng/ml : 156人、  
10ng/ml < : 40人、補正值不明: 70人

グルカゴン・プロプラロール負荷 (補正前)

7.5ng/ml : 14人、7.5< ~ 15ng/ml : 26人、  
15ng/ml < : 26人

グルカゴン・プロプラロール負荷 (補正後)

7.5ng/ml : 24人、7.5< ~ 15ng/ml : 22人、  
15ng/ml < : 14人、補正值不明: 6人

インスリン・プロプラロール負荷 (補正前)

7.5ng/ml : 6人、7.5< ~ 15ng/ml : 1人、  
15ng/ml < : 2人

インスリン・プロプラロール負荷 (補正後)

7.5ng/ml : 4人、7.5< ~ 15ng/ml : 3人、  
15ng/ml < : 0人、補正值不明: 2人

G R H負荷 (補正前)

7.5ng/ml : 24人、7.5< ~ 15ng/ml : 37人、  
15ng/ml < : 74人

G R H負荷 (補正後)

7.5ng/ml : 29人、7.5< ~ 15ng/ml : 33人、  
15ng/ml < : 49人、補正值不明: 24人

夜間平均血中成長ホルモン濃度 (補正前)

4.0ng/ml : 121人、4.0< ~ 5.0ng/ml : 38人、

5.0ng/ml < :186人、不明：863人  
 夜間平均血中成長ホルモン濃度（補正後）  
 4.0ng/ml :146人、4.0 < ~ 5.0ng/ml :33人、  
 5.0ng/ml < :130人、不明：899人

症候性低血糖

有：19人、無：1009人、不明：180人

出生胎位

頭位：876人、骨盤位：47人、帝切：109人、  
 その他：5人、不明：171人

新生児仮死

有：111人、無：917人、不明：180人

新生児黄疸の程度

軽：715人、中：195人、重：50人、不明：248人

新生児黄疸の遷延

有：102人、無：812人、不明：294人

脳の器質的疾患・画像診断の異常

有：78人、無：847人、不明：283人

## 1 2 ) 成長ホルモン治療用意見書（継続申請）

「成長ホルモン治療用意見書（継続）」の登録者6257人（41都府県市の資料）に関する統計を表1 2 - 1に、その中の「成長ホルモン分泌不全性低身長症」5894人の解析を表1 2 - 2に示す。

後者の登録者数は、「表5 - 4、成長ホルモン分泌不全性低身長症」の継続者6967人と比較して少なかった。1年間の治療効果無しは6人と極めて少なかったが、年間の補正成長率3.0cm未満は、約1年前からが110人、約半年前からが372人と多かった。

「慢性腎疾患」による継続申請者12人は、新規申請者22人と比べて少なかった。

### 表1 2 - 1、成長ホルモン治療用意見書（継続申請）

（合計6257人）、  
 （男子4119人、女子2085人、無記入53人）

岩手県142人、宮城県178人、茨城県75人、  
 千葉県198人、東京都784人、神奈川県68人、  
 新潟県95人、富山県138人、岐阜県269人、  
 静岡県380人、愛知県10人、三重県217人、  
 京都府150人、大阪府728人、奈良県160人、  
 和歌山県71人、岡山県135人、山口県194人、

徳島県33人、香川県198人、愛媛県199人、  
 高知県77人、熊本県106人、大分県58人、  
 沖縄県287人、千葉市81人、名古屋市369人、  
 北九州市143人、宇都宮市37人、新潟市55人、  
 富山市69人、岐阜市78人、浜松市96人、  
 豊田市 2人、堺市122人、岡山市115人、  
 高知市43人、長崎市 1人、熊本市10人、  
 大分市37人、鹿児島市49人の41都府県市の集計結果

疾患名	ICD10	人数(人)	%
成長ホルモン分泌不全性低身長症	E23.0E	5894	94.2
（詳細は表5 - 4、表1 2 - 2参照）			
ターナー症候群	Q96	194	3.1
軟骨異栄養症	Q77.4	108	1.7
慢性腎不全	N18.9	6	0.1
その他の慢性腎疾患		6	0.1
その他		49	0.8

### 表1 2 - 2、成長ホルモン分泌不全性低身長症（継続申請）

1年間の治療効果

有：4999人、有と思う：480人、判定不能：80人、  
 無と思う：5人、無：1人、不明：329人

GH治療と関係ある有害事象

無：5520人、有：52人、不明：322人

GH治療中のその他の有害事象

無：5418人、有：127人、不明：349人

約1年前からの補正成長率（cm / 年）

1.0未満：15人、1.0～1.9：29人、  
 2.0～2.9：66人、3.0～3.9：383人、  
 4.0～4.9：630人、5.0～5.9：1000人、  
 6.0～6.9：1112人、7.0～7.9：762人、  
 8.0～8.9：457人、9.0～9.9：216人、  
 10.0～10.9：103人、11.0以上：98人、  
 不明：1023人

約半年前からの補正成長率（cm / 年）

1.0未満：56人、1.0～1.9：96人、  
 2.0～2.9：220人、3.0～3.9：358人、  
 4.0～4.9：615人、5.0～5.9：785人、  
 6.0～6.9：820人、7.0～7.9：695人、  
 8.0～8.9：462人、9.0～9.9：272人、  
 10.0～10.9：172人、11.0以上：180人、  
 不明：1163人